

Title	オーストラリア刑事法学の一断面： 第二次大戦後の雑誌論文目録(追録II)
Sub Title	Ein Ausschnitt aus dem gegenwärtigen Stand der österreichischen Strafrechtswissenschaft : Zeitschriftenaufsätze der Strafrechtler und Praktiker in Österreich 2. Ergänzung Teil 2.
Author	宮澤, 浩一(Miyazawa, Koichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1979
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.52, No.5 (1979. 5) ,p.51- 104
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19790515-0051

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

オーストリア刑事法学の一断面

——第二次大戦後の雑誌論文目録——（追録Ⅱ）

宮澤浩一

前号に引き続き、第二次大戦後のオーストリア刑事法の資料を整理して公刊する。今回は、事項別に、雑誌論文と若干の祝賀論文集の論文とを分類してみた。一九六三年までの分の人名別・事項別の整理は、旧稿「オーストリア刑事法学の一断面——第二次大戦後の雑誌論文目録——」（本誌四一卷一二号、一九六八年、五一頁以下）に、すでに発表してあるので、今回の二回分と併せて利用することにより、全体として、第二次大戦後のオーストリアの刑事法の動向がつかめるのであるから、両者を関連づける工夫が必要である。そこで、次のようなことを試みてみた。

(1) 旧稿の事項別目録（前出五七頁以下）には、全論文に「から470までの番号がふつてある。そこで、今回は、論文番号を1001から始めることにした。そして、各主要項目ごとに、旧稿の論文番号何番から何番までの論文が該当項目にあるかをも注記して、検索の便に供する。

(2) 人名別の目録では、執筆者の経歴とか現職を調べるのに苦心したが、事項別の目録では、一つの論文が別のテーマにまたがる場

合に、どう関連づけて検索するかが重要であり、工夫のいるところだった。旧稿の場合と同様に、各論文に当つてみて、主として、どの項目に配列すべきかを考え、複数の事項に関連する場合は、人名の次に、簡単な内容を書き、↓印で所在番号を示すこととした。この方法は、前回のやり方をほぼ踏襲した。

(3) 旧稿を発表した頃と今回とでは、すでに一〇年の歳月の開きがある。旧稿に見られるように、一九四五年から五〇年頃の論文には、敗戦後、間もない頃のオーストリアの混乱が反映していた。旧稿の項目のうち、今回、殆んど論文がなかつたものとして、戦争犯罪・労働刑法・刑法史などの分野があり、今回、特に目立つのは、交通法・交通刑法の論文が多いことである。これは、オーストリア交通法雑誌が全巻調査できたためである。それにもかかわらず前回とパラレルにするために、ほぼ同じ項目分類とした。

(4) これらの資料を総合的に利用することによつて、一応、第二次大戦後のオーストリアの刑事法の動向をほぼ、正確に知ることができると思う。

× × ×

オーストリアの刑事法を研究する意義はどこにあるか。まず、比較刑事法という観点からみて、これまで、ドイツ語圏に属する諸外国の中で、あまりにも西ドイツに集中しすぎていたわが国の研究者の問題関心の分散をはかるということがその一つである。たしかに、現在のオーストリアの刑法研究者の顔ぶれをみると、西ドイツと比べて、層の薄さを感じないわけにはゆかない。オーストリアの大学関係者の経歴をみると、西ドイツと比べて、下積みの期間が非常に長いのである。これは、何も、最近の傾向ばかりでなく、戦前にもその状況はあつたと思われるので、オーストリアの大学制度に、以前と同様、徒弟制度のようなものが残っているのかも知れない。聞くところによると、オーストリアでは、西ドイツと比べて、給与も研究条件も良くないし、何よりも研究費が少ないということである。そうしたことが、大学研究者の士気に影響を及ぼしているのであろうか。

しかし、一方では、刑法の全面改正をいち早くなしとげて、総則のみならず、各則もすつきりした形をとつた刑法典を造り、なおそれに先立つて行刑法をも改正し終え、さらに、被害者補償制度の導入にも早くから対応したというダイナミックな改正の動きを示していることを考えると、それらはまぎれもなく、オーストリアの刑事法学の底力によるところが大きいと思われる。私の見るところ、相当のエネルギーが、実務家の間に貯えられているのではなからうか。時代や場所を超えた、抽象的思考の平面での学者の思惟や理論の展

開には、それなりの存在意義はありえよう。しかしながら、法的現実をふまえた、地道な解釈論や判例の積み重ねなしに学問が進展することはありえない。西ドイツの場合もそうであるが、オーストリアの場合、あちこちに散在する雑誌論文を集め、それを分析することで、はじめて、学問の動向の全体像が捕捉できる。ただ、西ドイツの場合は、「体系書」が多いし、「注釈書」の中に、学説や判例がかなり細部にわたるまで、整理されているので、それらの他人の手を経た加工品を手にするにより、或る程度、簡単に「現状」を知りえたかのごとき気持になりやすく、それ故にこそ、わが国で多くの人が西ドイツの刑事法学に近づく理由がある。しかし、じつくりと見つめるべき場所は、それらの完成品とは別のところにあると言えないだろうか。現実社会の問題を解決するためにヒントとなるような知恵は、抽象化された観念の世界の中のみあるとは思えない。「体系論」「理論」「学説」として蓄積された従来の思考やその成果をこえて、何とか、法的事実、法的現実の仕組みに切りこもうと摸索している多くの研究者や実務家の苦心とか努力は、従来のスタイルによる著作物を読むだけでは伝わってこない。現に動こうとしている学問の流れを知るには、体系書という、現実の「うわずみ」をすくつてまとめられた文献によるだけでは、不十分である。他人を信ぜず、自からの判断力を頼りにして、「刑法学」の動向を見つめようと志す者に、此の資料は「開かれて」いる。動こうとしているものが、どうなるか。帰趨は「開かれて」いる。横目でならんでおいて、大勢がどうなるか見極めがついてから、脱兎のごとくかけつけ

るといふ従来のいき方が性に合わない者の一人として、私自身、時間をかけて事態の推移を追いかけてきた。はじめは、小さな手仕事であつたものが、次第に、大きくふくらんでいつて、何か、一人の手に余るほどの規模の仕事に成長してきたが、しかしこのように論文や著書の所在をたしかめ、その一つ一つを手にとつて、整理をし、客観的な存在として位置づけをしておく、これまでとかく漠然としていた対象がやがて鮮明に見えてくるものである。小さなテーマの背後にある、大きな影が認識できるようになつてくる。かつて、何も分らずにとりついていた頃と比べると、一つの論稿を全体の中にどう位置づけて考えていくべきかがはつきりしてきて、そのため物の見方の厚み、深さを判別しうるようになり、学問の全体関連が、やや分つてきたように思う。こういうことは、各人が自分で会得すべき「コツ」のようなものであると思うが、資料集めというものは手間・閑のかかるものだから、他の研究者にそのまま使つて頂くのも功德だろうと考えている。

× × ×

終りに、此の資料をまとめながら考えたことを二、三書きとめておく。

実をいうと、此の二回分の資料は、本年の初夏にまとめることを予定していた。ところが、本誌の都合で急いで二月末に第一回分を出さねばならぬ事情が生じた。御承知のように、ヨーロッパから船便で送られてくる雑誌の場合、一二月号は、三月上旬頃に届くのが一般である。此の資料では、二、三の雑誌は、その分が欠けたまま作成

された。人名の場合は、あとからの補充が容易であるが、事項の場合、すべての論文に番号をつけ、しかも一つの論文が二、三のテーマを扱つている場合、カードを複数にする関係で論文の整理・分類は極めて錯綜している。あとから入手した分を含めて番号を訂正することをやめ、一二月号に出た論文については、a b という枝番号を用いることとした。勿論、一応の整理を終えて、点検し、内容について読んでみて、さしかえを要した場合にも、欠番にしたり、枝番号にした例もあるから、すべてが右の事情によつたというわけではないけれども、私としては、もう少し時間の余裕が欲しかった。しかるに、右のように急いでまとめた理由は何かというと、本誌の四月号が、編集不能になる事態に直面したことによる。ここ十数年、「法学研究」は、毎号、一〇〇頁を割ることなく、多少の遅れはあつても、他大学の例にみられるように合併号とせず毎月刊行されている。これは、編集に当る方々の努力と苦勞に依るところが大きいが、誰も好きこのんでやるわけがない編集の仕事に当る人々を苦境に追いこむことは、同僚として見るにしのびない。そういう気持で、かなり無理をして急いでまとめたのである。

勿論、ここに集めた論文を書き写したカードの一枚一枚には、毎月一、二回、土曜日に資料室において私自身が手で書いたり、タイプをたたいた時間がこもつており、全体として一〇年以上の時間がひめられている。その手間にかかる準備の日々のことを思うと、「何で、こういう愚かなことを続けなければならぬか」と苦笑することもなくはない。しかし、こういう時間を背景にすることによつ

て、例えば、何か一つの論文を手にしたとき、「このテーマについて大体、何年頃に集中的に論じられたことがあつた筈だ」とか、「はこのテーマはどこかで見たことがあるな」など、記憶がよみがえる。そのような場合の多くは、カード化をなし終えて、整理をする段階で、筆者名をたしかめ、実際に論文に当り、ざつと注に目を通して、本格的な仕事か否かを判定し、重要と思つたものをコピーし、項目別にファイルしておいた論文であることが多い。刑事法に関する主要な雑誌論文に関して、一応の見通しをつけておくことのメリットは大きい。

そのことは、同時に、他人の仕事を判断するのにも利用しうる。本物と偽物の区別がすぐつくからであるし、たとえ注をつけていない論文であつても、又、注をつけることを怠つたり、意図的につけなかつたりしたもので、どのあたりに手品の種があるか分つてしまふのである。或いは、不必要と思われる文献が引用されている一方、必要なものが引用していなかつたりする論文であれば、一読の価値があるか否かの的確な判断を可能にする。つまり、無駄な時間の節約もできるといふものである。

仕事というものは、時間の積み重ねであるから、カードやファイルをきちんと整理しておきさえすれば、一旦緩急あるときは、全力でまとめあげることができる。そういう用意ができている者にしてはじめて、プロということが許されるのではなからうか。

従つて、何回となく約束を反古にし、締め切りを引きのばし、その口実に、必要な文献を目下外国からとり寄せているところだなど

ぬけぬけと口にする不心得な研究者がいるとすれば、一体、プロとしての意識があるのかと言いたい。学者は、偏屈であることの許される職業である。しかし、偏屈というのは、仕事を第一と考え、社会的であることを拒け、一心不乱に学問に立ち向う姿をいうのであつて、他人に迷惑をかけ、編集者を困らせることを恥としない者を「偏屈」とはいわない。

最近の若い研究者によくみられるように、自分の所属する研究集団の顔ともいふべき「機関誌」を大切に考えようとせず、商業誌にばかり顔を向けるとどうなるか。何年かたつて、例えば、学術的な論文集をまとめようと思つたとき、採録すべき仕事が残らないということになりはしないか。編集物の教科書や学生向けの解説の類に、若い学者のエネルギーが浪費されているところに、重大な問題があると云えないであらうか。

「法学研究」を舞台として、他の法分野の多くの若手が、息の永い仕事をこつこつと発表する日がくることを、祈るような気持ちで待つているのは、私一人ではないだろう。

本稿には、オーストリアの雑誌から刑事法中心の論文を選んだほか、手元にある刑事法関係者の祝賀論文集・追悼論文集から、関連する論文をも抜き出した。その論文は、左の論文集からえた。出版年度順に列挙すると、左の通りである。

Festschr. f. Th. Ritter: Zeitschrift für österreichisches
Recht und vergleichende Rechtswissenschaft. 1. Jg., Heft

erlassen? JBl. 1974, S. 459 ff.

1009 Moos, Reinhard - Probst, Karlheinz; Einführung in das österreichische Strafrecht. Erfahrungen zum Lernprogramm von Kienapfel. oJZ 1976, S. 63 ff.

1010 Moos; Die gesellschaftliche Funktion des Strafrechts und die Strafrechtsreform. oRIZ 1977, S. 229 ff.

1011 Nowakowski, F.; Probleme der Strafrechtsdogmatik. JBl. 1972, S. 19 ff.

1012 Nowakowski; Ein Gang durch Probleme der Kriminalwissenschaften - Besprechung der Festschrift für Ernst Heinitz zum 70. Geburtstag. oJZ 1974, S. 617 ff.

1013 Platzgummer, W.; Die Allgemeinen Bestimmungen des Strafgesetzentwurfes im Licht der neueren Strafrechtsdogmatik. JBl. 1971, S. 236 ff.

1014 Pohl; Tattfragen und Rechtsfragen im Strafrecht. oJZ 1968, S. 542 ff.

1015 Pohl; Die Gefahr im Strafrecht. oJZ 1969, S. 620 ff.

1016 Schild, Wolfgang; Die Aktualität Ernst Belings. Gedanken zu seiner Wissenschafts- und Strafrechtslehre. JBl. 1975, S. 281 ff.

1017 Serini, Eugen; Das neue Österreichische Strafgesetzbuch. Festschr. f. Dreher, 1977, S. 729 ff.

1018 Simotta, Daphne-Ariane; Das neue Strafrecht und

sein Einfluß auf die Wiederaufnahmsklage nach § 530 Abs. 1 Z 1 und 3 ZPO. oJZ 1978, S. 337 ff., 375 ff.

1019 Simotta, Daphne-Ariane; Das neue Strafrecht und sein Einfluß auf die Wiederaufnahmsklage nach § 530 Abs. 1 Z 2 und 4 ZPO. oJZ 1978, S. 624 ff., 645 ff.

1020 Sluga, Willibard; Das neue Strafgesetzbuch und die Aufgaben einer neuen forensischen Psychiatrie. oJZ 1974, S. 203 ff.

1020-a Steinert, Heinz; Über die Funktionen des Strafrechts. Festschr. f. Broda, 1976, S. 335 ff.

系補強の Geltungsbereich des StrR

1021 Liebscher, Viktor; Die räumliche Geltung des Strafrechts nach der RV 1971 und das Verkehrsstrafrecht. ZVR 1973, S. 330 ff.

1022 Schick; Zeitgesetze. Ein Problem des Strafanwendungsrechts. JBl. 1969, S. 639 ff.

系補強・系補強 Juristenausbildung

1023 Brustbauer, Konrad; Fortbildungsseminar aus Strafrecht und Kriminologie. oRIZ 1973, S. 78 ff.

1024 Hauptmann, Walter u. Sittenhalter, Siegfried; Strafrecht: Zusammenarbeit zwischen Theorie und Praxis in

Linz. öRiZ 1976, S. 132 ff.

1025 Schragel, Walter; Juristenaus- und -fortbildung. öRiZ 1974, S. 128 ff.

1026 Wassermann, Rudolf; Zur Ausbildung des modernen Strafrichters. StrProbl. III 1975, S. 113 ff.

采埃取 Geschichtliches zum StrR

[Nr. 9—12]

1027 Hartl, F.; (采聖聖堂) 200jähriges Jubiläum der Aufhebung der Folter in Österreich) → 1663.

采賢・聖聖取 Glückwünsche u. Nekrologe

[Nr. 13—27]

1028 Matscher, Franz; Albert A. Ehrenzweig †. JBl. 1975, S. 363 ff.

1029 Burgstaller, Manfred; Roland Grabberger 70 Jahre. JBl. 1975, S. 306 ff.

1030 Bydlinksi; Franz Geschnitzer †. JBl. 1968, S. 467 ff.

1031 Klecatsky, Hans R.; Hans Kelsen †. JBl. 1973, S. 305.

1032 Hradetzky, Alois; Oberlandesgerichtspräsident Dr. Wilhelm Malanik †. öRiZ 1966, S. 25.

1033 Klecatsky, René Marcie †. JBl. 1971, S. 566 ff.

1034 Mayer-Maly; Der Rechtsdenker Marcie. Gedächtnisschr. f. Marcie, 1974, S. 194 ff.

1035 Foltin, Edgar M.; Theodor Rittler. Festschr. f. Rittler, 1946, S. 3 ff.

1036 Lindner, Ludwig; Theodor Rittler. Festschr. f. Rittler, 1957, S. 7 ff.

1037 Sesionek, Udo; Dr. Johann Schuster – 70 Jahre. öRiZ 1978, S. 55.

1038 Mosler; Übergabe der Internationalen Festschrift zum 80. Geburtstag von Alfred Verdross. JBl. 1971, S. 411 ff.

1039 Simma, Bruno; Alfred Verdross – 85 Jahre. JBl. 1975, S. 86 f.

1040 Liebscher; 100 Jahre Juristische Blätter. JBl. 1972, S. 113 ff.

采埃取 采賢 Auslegung des StrR

[Nr. 28-30]

1041 Kunst, Günther; Interpretationsmethode im Strafrecht. JBl. 1971, S. 329 ff.

1042 Kunst; Unbestimmte Zahl- und Maßbegriffe im neuen StGB. öJZ 1975, S. 561 ff.

1043 Marschall, Karl u. Vleck, Adalbert; „In dubio pro mitius“ als Auslegungsgrundsatz im neuen Strafrecht. öJZ

- 1974, S. 389 ff., 425 ff., 449 ff.
- 1044 Marschall, Karl; Die Strafrechtsauslegung im wissenschaftlichen Meinungsstreit von Theorie und Praxis. oJZ 1977, S. 9 ff.
- 1045 Nowakowski, Friedrich; Die Bedeutung von Entwürfen und Regierungsvorlagen für die Auslegung des geltenden Strafrechts. oRIZ 1973, S. 2 ff.
- 国際法** Internationales StrR
[Nr. 45—48]
- 1046 Liebscher, Viktor; Die zwischenstaatliche Ahndung von Verkehrsdelikten. ZVR 1965, S. 295 ff.
- 1047 Liebscher, V.; Kraftfahrwesen und internationales Strafrecht. ZVR 1972, S. 1 ff.
- 1048 Liebscher, V.; Die neue Struktur des Internationalen Strafrechts JBl. 1974, S. 393 ff.
- 1049 Linke, Robert; Die Ahndung von Verkehrsstrafaten in zwischenstaatlicher Sicht. ZVR 1960, S. 265 ff.
- 1050 Linke; Das Europäische Übereinkommen über die Rechtshilfe in Strafsachen. oJZ 1968, S. 286 ff.
- 1051 Linke; Zwischenstaatliche Kompetenzkonflikte auf dem Gebiet des Strafrechts. Aktuelle Probleme des Internationalen Strafrechts. Festschr. f. Grutzner, 1970, S. 85 ff.
- 1052 Linke; Entwicklungstendenzen des zwischenstaatlichen Verkehrsstrafrechts. ZVR 1974, S. 97 ff.
- 1053 Linke; Internationaler Terrorismus als Rechtsprobleme. oJZ 1976, S. 230 ff.
- 1054 Linke; Das Europäische Übereinkommen zur Bekämpfung des Terrorismus vom 27. Januar 1977. oJZ 1977, S. 232 ff.
- 1055 Miessler, H.; Die Unverletzlichkeit des Diplomaten. Vorläufige Bemerkungen zur Ermordung des westdeutschen Botschafters in Guatemala. JBl. 1970, S. 337 ff.
- 1056 Pfeifer; Das neue österreichische Asylrecht. Erfüllung und unerfüllte Wünsche. JBl. 1969, S. 57 ff.
- 1057 Reishofer, Wolfgang; Das Haager Straßenverkehrsübereinkommen. ZVR 1977, S. 33 ff.
- 1058 Schutz; (ルースと) 航空法 Zur Bekämpfung von Flugzeugentführungen) →1496.
- 1059 Schwimann, Michael; Probleme des Haager Straßenverkehrsabkommens. ZVR 1978, S. 161 ff.
- 1060 Simma; (航空法) Volkermord) →1526.
- 1061 Vetter, Theodor; Terminologisch-semantische Beiträge zur Fluchtlingforschung. oJZ 1977, S. 281 ff.

外国法雑誌 Auslandschan

[Nr. 49-86]

1062 Janiszewski H.; (西ドイツの交通刑法の統一 | Vereinbeitlichung des Verkehrsstrafrechts in Westeuropa) →1183.

1063 Kreucker; (ヨーロッパ入権会議 Europaische Menschenrechtskonvention) →1865.

1064 Piegler; (ヨーロッパ諸国憲法と自由の裁量制度 | Das Richter-tum in den Verfassungen Europas) →1549.

1065 Jensik; (ヨーロッパ自由の裁量制度の歴史 | Die Stellung der Richter in Belgien) →1546.

1066 Dittlich; (西ドイツの交通法の発展 | Die Entwicklung des Straßenverkehrsrechts der BRD) →1187.

1067 Egermann; (西ドイツの自動車運転免許と交通法 | Das Fahrverbot in der BRD und in Österreich) →1807.

1068 Grimm; (西ドイツの交通法 | Fristenlosungsurteil in der BRD) →1450.

1069 Hündel, K.; (西ドイツの交通法の改正 | Die Änderungen im Straßenverkehrsrecht der BRD) →1193.

1070 Jescheck, H.-H.; (西ドイツの交通法の発展 | Die neue Entwicklung des deutschen Strafverfahrensrechts) →1586.

1071 Kodak; (西ドイツの少年犯罪法 | Deutscher Jugendgerichstag) →1703.

1072 Leitenberger; (外務警察 | Ausländerpolizeiliche Probleme in der BRD) →1797.

me in der BRD) →1797.

1073 Nowakowski, F.; (西ドイツの刑法 | Der deutsche Alternativentwurf und die österreichische Strafgesetzreform) →1298.

1073-a Piegler; (西ドイツの憲法 | Im Flug durch Deutschland) →1845.

1074 Piska; (西ドイツの少年犯罪法 | Der 11. deutsche Jugendgerichtstag) →1708.

1075 Schuppich; (西ドイツの自由 | Die deutsche Rechtsanwalte) →1550.

1076 Seehon, J.; (西ドイツの交通法 | Straßenverkehrsrecht der BRD) →1197.

1077 Sesser, K.; (西ドイツの犯罪学 | Moderne Tendenzen in der deutschen Kriminologie) →1751.

1078 Wattohik; (西ドイツの交通法 | Die Halte- und Parkvorschriften in deut. u. oster. Straß-enverkehrsrecht) →1235.

1079 Wietlauf; (西ドイツの腸胃病 | Larmbekämpfung in der BRD) →1511.

1080 de With; (西ドイツの交通法 | Das Strafvollzugsrecht in der BRD) →1795.

1081 Zipf, H.; (西ドイツの交通法 | Das Strafverfahren in der BRD) →1590.

- 1082 NN; (聖エドワードの勅諭 中断 Unterbrechung der Schwangerschaft in der BRD) →1454.
- 1083 Jann (ホークランドの裁判官の権利と義務 Die Englandreise osterr. Richter) →1827.
- 1084 Schmitz, G.; (ヲギリスのトントーン税関官の権限 Alkoholltestgesetzgebung in England) →1196.
- 1085 Grumbach, J.-J.; (トントンの刑法 法 Französisches Strafenverkehrsrecht) →1189.
- 1086 Loewe, R.; (トントンの裁判官の職務と権利 Die Geltendmachung zivilrechtlicher Ansprüche im französischen StProz.) → 1587.
- 1087 Nargang, I.; (トントンの少年裁判官 Jugendrichter in Paris) →1715.
- 1088 Hohenleitner, S.; (ホークランドの刑法 Die osterr. u. die ital. StVO) →1191.
- 1089 Jensis; (ヲーストンの裁判官 Italian. Oberst-Gerichtshof) →1545.
- 1090 Ertli; (日本国裁判官の職務 Die Gerichtsbarkeit in Japan) →1542.
- 1091 Singer; (ホーランドの刑法 Die Jugendliche im jugoslavischen Strafrecht) →1716.
- 1092 Faber, A. K.; (トントンの刑法 Die Niederländisches StrafenVR) →1188.
- 1093 Ertli; (ヲーストンの裁判官 Die Gerichtsbarkeit in Pakistan) →1543.
- 1094 Reidl, O.; (ヲーストンの刑法 Rumanisches StrafenVR) → 1195.
- 1095 Nechvatal; (トントンの刑法 Schwed. Schottisches StProz) →1588.
- 1096 Fischer; (トントンの刑法 Schwed. Strafvollzug in Schweden) →1782.
- 1097 Hohenleitner, S.; → (トントンの刑法 Das neue Schw. StrafenVR) →1192.
- 1098 Menbres, E.; (トントンの刑法 Schw. StrafenVR) →1194.
- 1099 Wahlstrom; (トントンの刑法 Schwed. StrafenVR) → 1198.
- 1100 Derbolav; (トントンの裁判官 Richter u. Gericht in Türkei) → 1541.
- 1101 Terhitz; (南アフリカの刑法 Die Justiz in Sudafrika) →1551.
- 1102 Bajory, P.; (トントンの裁判官 Das Oberste Gericht der ungar. VolksRep.) → 1540.
- 1103 Karoly, B.; (トントンの刑法 Ungar. StrafenVR) → 1186.
- 1104 Somlo; (トントンの刑法 Das Ungarische Jugendgericht) → 1717.
- 1105 Adam, R.; (トントンの裁判官 Ein Polizeibeamter in den USA) → 1739.

1106 Adam, R.; (トマコフの采編 Strafausmaß in den USA) → 1408.

1107 Adam, R.; (トマコフの理監機件罪 Ausgleichsverfahren-plea bargaining in den USA) → 1585.

1108 Bader, H.; (トマコフの精製 Elektronische Abhörgeräte in den USA) → 1622.

1109 Kodaki; (トマコフの少年犯罪少年保護警察 Jugendstrafvollzug und Bewahrungshilfe in den USA) → 1787.

行政裁判 Verwaltungsstrafrecht

[Nr. 87—95]

1110 Dolp; (行政裁判と民法の關係 Der Irrtum im Verwaltungsstrafrecht) → 1378.

1111 Heckl; (行政裁判と民法の關係 Konkurrenzproblem im Verwaltungsstrafrecht) → 1410.

1112 Fichler-Drexler, Erwin; Die Subsidiaritätsklausel im Verwaltungsstrafrecht unter Bedacht auf § 111 Kraftfahrsgesetz 1955. ZVR 1956, S. 161 ff., 179 ff.

1113 Schonegger; Gesetzesverletzungen bei der Delegation im Verwaltungsstrafverfahren. oJZ 1968, S. 385 f.

1114 Szirba, Rudolf; Die Subsidiaritätsklausel bei straffempfehlenden Verwaltungsübertretungen. ZVR 1966, S. 117

f.

1115 Szirba, R. u. Schönfeld, Walter; Zur Reform des Verwaltungsstrafrechtes. oRiZ 1977, S. 89 ff.

1116 Tiedemann, K.; Verwaltungsstrafrecht und Rechtsstaat. oJZ 1972, S. 285 ff.

行政裁判 Strafrechtliche Nebengesetze

[Nr. 96-109]

1117 Barfuß; Sind die Strafbestimmungen des Lebensmittelgesetzes 1951 reformbedürftig? JBl. 1972, S. 185 ff.

1118 Kreuzstetter; (成人の娯楽 Pornographiegesetz) → 1516.

1119 Liebscher, Viktor; Selbstherrliches Mieten-Strafrecht. Bemerkungen zum „Hausverwalterteil!“ 11 Os 1/74.

JBl. 1975, S. 522 ff.

1120 Perenthaler, Peter; Die Zustandigkeit zur Regelung der Angelegenheiten der Prostitution. oJZ 1975, S. 287 ff.

1121 Reissig, Gottfried; Der Tatbestand nach § 1 des Unterhaltsschutzgesetzes (BG. vom 4. Februar 1925, BGBl. Nr. 69) und seine Anwendung im Strafverfahren. oRiZ 1955, S. 134 ff., 155 ff.

1122 Rieder, Sepp; Das neue Lebensmittelgesetz : Strafrechtsreform und Lebensmittelrecht. oJZ 1976, S. 172 ff.

1123 Ritter; Das Strafrecht Österreich und der Streik

der Beamten. Festschr. f. U. Stock, 1968, S. 127 ff.

1124 H. Roeder; (株主総会決議の瑕疵問題) Sachverst. Beweis im Lebensmittelgesetz) → 1617.

1125 Schönerr; (株主総会決議の瑕疵問題) Der Irrtum über strafrechtl. Nebengesetze) → 1384.

1126 Wimmer, Norbert; Das Lebensmittelgesetz 1975.

Sein Vollzug im Widerstreit von Rechtsmeinungen, Sachverstand und Interessen. JBl. 1977, S. 471 ff.

1127 Wrabetz; Sind die Strafbestimmungen des Lebensmittelgesetzes 1951 reformbedürftig? JBl. 1971, S. 554 ff.

民法の 金融刑法

[Nr. 110—111]

1128 Lambauer, Heimo; Anklageprozeß und Anklagenonopoli nach dem Finanzstrafgesetz. Hundert Jahre, 1973, S. 95 ff.

民法の Wirtschaftsstrafrecht

1129 Ertl, Gunter; Fortbildungseminar für Richter und Staatsanwälte zum Thema „Wirtschaftsstrafrecht“. oRiZ 1973, S. 157 f.

1130 Lusing, Johann; Kritische Betrachtungen zur Strafbarkeit der Verheimlichung des Vorrates und der Verwei-

gerung des Verkaufs von Waren notwendiger Lebensbedürfnisse. öRiZ 1955, S. 98 ff.

1131 Schick, Peter J.; Kriminalpolitische Erwägungen zum Wirtschaftsstrafrecht in Österreich. oJZ 1975, S. 537 ff.

民法の 交通刑法

[Nr. 115—125]

I 交通 交通刑法

1132 Baumann, Jürgen; Möglichkeiten und Grenzen für Gesetzgebung und Rechtsprechung, durch Strafmaßnahmen die Verkehrssicherheit zu heben. ZVR 1967, S. 113 ff.

1133 Burgstaller; Straßenverkehr und Strafrecht. ZVR 1978, Sonderh. S. 20 ff.

1134 Gaisbauer, Georg; Der Fußgänger im Straßenverkehr. ZVR 1959, S. 121 ff., 142 ff., 163 ff., 185 ff., 204 ff., 225 ff.

1135 Gunzert, Rudolf; Soziologische Problematik des Verkehrsstrafrechts. ZVR 1964, S. 29 ff.

1136 Gunzert, R.; Verkehrssicherheit — eine wichtige Aufgabe der modernen Gesellschaft. ZVR 1967, S. 309 ff.

1137 Hartl, Friedrich; Verkehrsrecht, Rechtsprechung

- und Verkehrssicherheit. Gedanken zum Grundsatzlichen. ZVR 1965, S. 2 ff.
- 1138 Hartmann, Rudolf; Verkehrsdelikte und Prophylaxe. ZVR 1971, S. 321 ff.
- 1139 Hellbing, Ernst C.; Das kraftfahrrechtliche und das straßenverkehrsrechtliche Verwaltungsstrafrecht. ZVR 1961, S. 97 ff.
- 1140 Hofner, K. J.; (令学軽乗車令の課題) Die Problematik des jugendl. Kraftfahrers) → 1697.
- 1141 Jarosch, Klaus; Das Schmerzproblem. öRiZ 1958, S. 109 ff.
- 1142 Jurka, K.; (父権保護の意義) Zur Entkriminalisierung des Verkehrsstrafrechts) → 1004.
- 1143 Kammerhofer, Othmar; Das Kraftfahrrecht im System des Straßenverkehrsrechts. ZVR 1968, 254 ff.
- 1144 Klecatsky, Hans; Die Bundesverfassungsnovelle über die Straßenpolizei. ZVR 1960, S. 193 ff.
- 1145 Kopke, Gerhard; Die Bedeutung der Automatismen für das Verkehrsstrafrecht. ZVR 1970, S. 281 ff.
- 1146 Kopke, G.; Die Effizienz der StVO 1960. öRiZ 1974, S. 130 ff.
- 1147 Lecher, Ernst; Kurs des Straßenverkehrsrechtes in Mantua vom 22. bis 29. März 1958. öRiZ 1958, S. 77 f.
- 1148 Liebsocher, (原案・父権保護の意義) Die räumliche Geltung des StR u. VerkehrsStR) → 1021.
- 1149 Linke; (令学軽乗車令の課題) Flugzeugentführung) → 1506.
- 1150 Lotheissen, Wolfgang; Die strafrechtliche Erfassung des Verkehrsunfalles. ZVR 1968, S. 161 ff.
- 1151 Lotheissen W.; (父権保護の意義) Entkriminalisierung des VerkehrsStR) → 1007.
- 1152 Müller, Otto; Durfen unsere Kinder allein nach Hause gehen? ZVR 1967, S. 229 ff.
- 1153 Nester, Walther; Das österreichische Straßenverkehrsrecht. ZVR 1961, S. 150 ff., 170 ff., 196 ff., 224 ff.
- 1154 Nester, W.; Verkehrsföderalismus. ZVR 1963, S. 8 ff.
- 1155 Obholzer, Franz; Das Kind im Straßenverkehr. ZVR 1978, S. 1 ff.
- 1156 Öhlinger, Theo; Zur Kompetenzlage auf dem Gebiet des Straßenverkehrs. Insbesondere zu den Kompetenzatbeständen „Kraftfahrwesen“ und „Straßenpolizei“. ZVR 1978, S. 321 f.
- 1157 Okressek, Wolf; Neue Wege im Verkehrsstrafrecht. Stellungnahme zur Unfallursachenstatistik des HUK-Vereins auf der 5. Verkehrsjuristentagung in München — Tagungsbericht. ZVR 1973, S. 279 ff.

- 1158 Pitz, Reinhold; Die Beteiligung Jugendlicher an Straßenverkehrsunfällen. Versuch einer Klarstellung. ZVR 1966, S. 263 ff.
- 1159 Reindl, Peter; Die Hilfeleistungspflicht beim Verkehrsunfall und die Kenntnis „Lebensrettender Sofortmaßnahmen“. ZVR 1977, S. 321 ff.
- 1160 Schachter, Herbert; Grundsätze der österreichischen Straßenverkehrsordnung. ZVR 1975, S. 97 ff.
- 1161 Schaffer, Otto; Die Rechtsregel in der Praxis des Verkehrs und im Spiegel der Judikatur. ZVR 1959, S. 64 ff.
- 1162 Schick, Peter J.; Problemaspekte des Verkehrsstrafrechts. ZVR 1974, S. 353 ff.
- 1163 Szirba, R.; (交通警察の職務と警察官の権限) Die Subsidiaritätsklausel bei straßenpolizeilichen Verwaltungsübertretungen) → 1114.
- 1164 Undeutsch, Udo; Verkehrsvorschriften psychologisch betrachtet. ZVR 1968, S. 8 ff.
- 1165 Weimar, Wilhelm; Kinder als Verursacher und Opfer von Verkehrsunfällen – dargestellt nach deutschem Recht. ZVR 1961, S. 54 ff.
- 1166 Weiser, Rudolf; Schutzgesetzverletzung, Verschulden und Beweislast. ZVR 1976, S. 1 ff.
- § 4 Reform des Verkehrsrechts u. Verkehrsstrafrechts
- 1167 Arnold, Egon; Nochmals: Der Art. IX des Kundmachungspatentes zum StG. und die Straßenverkehrsordnung. ZVR 1965, S. 1 f.
- 1168 Feichtenberger; (1167 ㊦㊦㊦ wie Nr. 1167) → 1002.
- 1169 Kunst, G.; (道路交通法改正案の検討) Die Verkehrsdelikte nach der Zweiten Lesung des StG-Entw.) → 1292.
- 1170 Malaniuk, W.; (道路交通法改正案の検討) Die Verkehrsdelikte im Str.-Entw.) → 1294.
- 1171 Vogl, H.; (1170 ㊦㊦㊦ wie Nr. 1170) → 1312.
- 1172 Dittrich, Robert; Gedanken zum Entwurf einer 3. StVO. -Novelle. ZVR 1967, S. 197 ff. Novelle — S. 201 ff.
- 1173 Dittrich, R.; Die Regierungsvorlage einer 3. Straßenverkehrsordnungs-Novelle. Ein Fußweg für Vielschäftige. ZVR 1968, S. 281 ff.
- 1174 Glassl, Karl; Die bevorstehende Novellierung der StVO. 1960. ZVR 1963, S. 253 ff.
- 1175 Kammerhofer, Othmar; Die Straßenverkehrsordnung 1960. ZVR 1960, S. 169 ff., 198 ff.
- 1176 Kammerhofer, O.; Die Straßenverkehrsordnungs-Novelle 1964. ZVR 1964, S. 225 ff.

- 1177 Frohlichsthal, Heinz; Zum Entwurf des neuen Straßenpolizeigesetzes. ZVR 1958, S. 82 ff
- 1178 Gaisbauer, Georg; Gedanken über den Referentenentwurf zum neuen Straßenpolizeigesetz. ZVR 1957, S. 225 ff.
- ★ 團 Ausländisches Verkehrs(-straf-)recht
- 1179 Liebscher, V.; (外國法學の國際法學部) Die zwischenstaatl. Abhandlung von Verkehrsdelikten) →1046.
- 1180 Linke R.; (1179 ㄨㄟ) wre Nr. 1179) →1049.
- 1181 Liebscher, V.; (車輛學の國際法學部) Kraftfahrwesen u. internationales Str) → 1047.
- 1182 Linke, R.; Ein Europäisches Übereinkommen über die Bestrafung von Verkehrsdelikten. ZVR 1965, S. 29 ff.
- 1183 Janiszewski, Horst; Stand der Arbeiten zur Vereinheitlichung des Straßenverkehrs-Strafrechts im westeuropäischen Bereich. ZVR 1973, S. 193 ff.
- 1184 Reishofer W.; (外國法學部) Das Haager Straßenverkehrsübereinkommen) → 1057.
- 1185 Schwimann; (1184 ㄨㄟ) wie Nr. 1184) →1057.
- 1186 Bárd, Károly; Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach ungarischem Recht. ZVR 1973, S. 362 ff.
- 1187 Dittrich, Robert; Die Entwicklung des Straßenverkehrsrechts der Bundesrepublik Deutschland. ZVR 1966, S. 34 ff.
- 1188 Faber, A. K.; Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach niederländischem Recht. ZVR 1973, S. 346 ff.
- 1189 Grumbach, Jean-Jacques; Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach französischem Recht. ZVR 1973, S. 341 ff.
- 1190 Habel, Walther; Überblick über das internationale Straßenverkehrsrecht. ZVR 1965, S. 282 ff.
- 1191 Hohenleitner, Siegfried; Die Österreichische und die Italienische Straßenverkehrsordnung. ZVR 1962, S. 141 ff.
- 1192 Hohenleitner, S.; Das neue Schweizer Straßenverkehrsrecht. ZVR 1964, S. 113 ff.
- 1193 Hondel, Konrad; Die Änderungen im Straßenverkehrsrecht der Bundesrepublik Deutschland. ZVR 1956, S. 164 ff.
- 1194 Knittl, Alois; Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach österreichischem Recht. ZVR 1973, S. 350 ff.
- 1194-a Membrez, F.; Der Straßenverkehrsunfall aus in-

- ternationaler Sicht. Beurteilung nach schweizerischem Recht. ZVR 1973, S. 360 ff.
- 1195 Reidle, Otto; Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach rumanischem Recht. ZVR 1973, S. 358.
- 1196 Schmitz, Georg; Alkohotestgesetzgebung in England. ZVR 1970, S. 199 ff.
- 1197 Seehon, Johann; Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach dem Recht der BRD. ZVR 1973, S. 338 ff.
- 1198 Wahlström, Bengt; Der Straßenverkehrsunfall aus internationaler Sicht. Beurteilung nach schwedischem Recht. ZVR 1973, S. 358 ff.
- 宗持興徳博士の論文 交通事故法と交通法
 mit der Strafrechtsdogmatik
- 1199 Baumann, Jürgen; Berücksichtigung der Ursächlichkeit von Straßenmängeln bei der strafrechtlichen Behandlung von Straßenverkehrsunfällen. ZVR 1965, S. 57 ff.
- 1200 Mayer-Maly (大木博士の論文) 交通事故による損害賠償 (Schadigung durch Unterlassung) → 1324.
- 1201 Lambauer (大木博士の論文) 交通事故と賠償責任 (Der Rechtswichtigkeitszusammenhang als Problem des StraßenVStR) → 1328.
- 1202 Seiler; (大木博士の論文) 交通事故と賠償責任 (Die Bedeutung des Handlungsunwertes im VerkehrsStR) → 1330.
- 1203 Kienapfel, D.; (大木博士の論文) 交通事故と賠償責任 (Die Fahrlässigkeit unter bes. Berücksichtigung des StraßenV) → 1365.
- 1204 Dietrich; (大木博士の論文) Zur Anerkennung des Vertrauensgrundsatzes im kunftigen VerkehrsStR) → 1369.
- 1205 Glassl; (大木博士の論文) Der Vertrauensgrundsatz) → 1370.
- 1206 Glassl; (大木博士の論文) Nochmals: Der Vertrauensgrundsatz) → 1371.
- 12 7 Kammerhofer; (大木博士の論文) 交通事故と賠償責任 (Bedeutung, Folgen und Grenzen des Vertrauensgrundsatzes) → 1373.
- 1208 Kulka; (大木博士の論文) Allgemeine Verhaltensregel und Vertrauensgrundsatz) → 1374.
- 1209 Lotheissen; (大木博士の論文) Der Vertrauensgrundsatz und seine Konsequenzen) → 1375.
- 1210 Lustig; (大木博士の論文) Der Vertrauensgrundsatz) → 1376.
- 1211 Steininger; (大木博士の論文) Verkehrssicherungspflicht (Vertrauensgrundsatz u. Fahrlässigkeit) → 1377.
- 大木博士の論文 交通事故と賠償責任 (Auslegung der einzelnen Paragraphen)
- 1212 Bauerreiß, Wolfgang; § 268 ZPO. und die Verkehrsdelikte. ZVR 1967, S. 142 ff.
- 1213 Dittrich, Robert; Die Vorschriften des Kraftfahr-

gesetzes 1967 über den Verkehr mit Kraftfahrzeugen und Anhang. ZVR 1968, S. 126 ff.

1214 Dittrich, R.; Aktuelle Fragen des Straßenpolizei- und Kraftfahrzeugrechtes. ZVR 1978, Sonderheft S. 10 ff.

1215 Ent, Herbert; Die Pflicht zur Hilfeleistung und Rettung im Straßenverkehr. ZVR 1957, S. 221 ff.

1216 Faseth, Erwin; Gedanken zur Auslegung des § 3 StVO. 1960. ZVR 1963, S. 281 ff.

1217 Gaisbauer, Georg; Anlieger und Anliegerverkehr. ZVR 1959, S. 43 ff.

1218 Gaisbauer, G.; Zur Auslegung der Begriffe „besonders gefährliche Verhältnisse“ und „besondere Rücksichtslosigkeit“ im § 99 Abs. 2 lit. c StVO. 1960. ZVR 1962, S. 113 ff.

1219 Gaisbauer, G.; Eine Zweifelsfrage bei der Auslegung des § 5 Abs. 6 StVO. ZVR 1963, S. 170 ff.

1220 Glassl, Karl; Der Mißbrauch von Notzeichen und Normmeldungen. ZVR 1963, S. 309 ff.

1221 Hartmann, Rudolf; Zur Auslegung des Rechtsvorschriften. ZVR 1956, S. 145 ff.

1222 Veit, Rolf; Stellungnahme zu vorstehenden Ausführungen. (R. Hartmann, Zur Auslegung des Rechtsvorschriften.) ZVR 1956, S. 147 ff.

1223 Hofmann, Kurt; Ist eine Novelle zu § 3 StVO. 1960

notwendig? ZVR 1963, S. 200 ff.

1224 Kammerhofer, Othmar; Ließ sich § 7 StPolG. nicht aufheben? ZVR 1961, S. 246 f.

1225 Kojia, Friedrich; Zur Auslegung des § 4 Abs 1 Bundesstraßengesetz 1971. ZVR 1978, S. 225 ff.

1226 Kopke, Gerhard; Die Bedeutung der Refrexe für das Verkehrsstrafrecht. ZVR 1971, S. 289 ff.

1227 Krumme, Elisabeth; Der Begriff der Rücksichtslosigkeit im Verkehrsstrafrecht. ZVR 1965, S. 117 ff.

1228 Lotheissen, Wolfgang; Konstruktion und Problematik der „leichten Fälle“ im Sinne des § 42 RV 1971. JBl. 1974, S. 26 ff.

1229 Lustig, Johann; Fahrerflucht. ZVR 1956, S. 17 ff.

1230 Lustig, J.; (情状の異なる比較) Vergleichende Darstellung der Strafbarkeit der Verkehrsunterschiedsflucht) →1508.

1231 Melnicky, Walter; Gurtenanlegungspflicht — strafrechtliche Aspekte. ZVR 1976, S. 67 f.

1232 Schanhuber, J.; Auf frischer Tat betreten. Zur Auslegung dieses Begriffes bei Verkehrsdelikten. ZVR 1958, S. 144 ff.

1233 Schobel, Otto; Die Novellenbestimmung des § 17 Abs. 3 StVO. ZVR 1967, S. 1 ff.

1234 Spehar, Herbert; Zur Auslegung der Begriffe „Fahr-

zeug, das zum Antrieb mit Maschinenkraft eingerichtet ist“ und „Fahrrad“ im § 467 b StG. ZVR 1964, S. 58 ff.

1235 Watolik, Erich; Die Halte- und Parkvorschriften im deutschen und österreichischen Straßenverkehrsrecht. ZVR 1965, S. 253 ff.

1236 Weinert, Friedrich; Die Entwicklung des § 5 StVO. in der Praxis. ZVR 1963, S. 228 ff.

脚註54 verschiedene Fahrweise

1237 Foregger; (目付トメテニ致シ 離離離) Blutalkoholgehalt. Berauschnungsgerrad und Ausmaß der Fahrunsicherheit) →1767.

1238 Gaisbauer, Georg; Lenken eines Fahrzeuges im alkoholbeeinträchtigten Zustand und § 99 Abs. 6 Ht. a StVO. 1960. ZVR 1964, S. 4 ff.

1239 Gaisbauer, G.; Die Alkolestprobe. Versuch einer Gesamtdarstellung für die Praxis an Hand des einschlagigen Schrifttums. ZVR 1964, S. 85 ff., 115 ff., 144 ff.

1240 Gaisbauer, G.; Die Rechtsprechung zu verkehrsmedizinischen und angrenzenden alkoholbedingten Verkehrsdelikten. ZVR 1965, S. 88 ff.

1241 Gaisbauer, G.; Zum Begriff der „Vermutung“ der Alkoholbeeinträchtigung im Sinne des § 5 Abs. 2 StVO. 1960. ZVR 1967, S. 5 ff.

1242 Herlich, J. u. Strada, W.; Alkohol und Verkehrsunfall. ZVR 1968, S. 1 ff.

1243 Schaller, Walter; Blutalkohol bei Verkehrsstrafaten. oRiZ 1956, S. 1 ff.

1244 Friedrich, Walter; Sicht und Beleuchtung während der Dämmerung. oRiZ 1957, S. 94 ff.

1245 Gaisbauer, Georg; Die Larmbekämpfung im Straßenverkehr. ZVR 1957, S. 26 ff.

1246 Gaisbauer, G.; Der übermüdete Kraftfahrer. oRiZ 1958, S. 157 ff.

1247 Gartner, Josef H.; Die Maßnahmen zur Lösung der großstädtischen Parkproblemen in Wien und ihr rechtliches Schicksal. ZVR 1960, S. 73 ff., 97 ff.

1248 Glassl, Karl; Das Fahren mit abgenutzten Reifen. ZVR 1967, S. 225 ff.

1249 Jarosch, Klaus; Blendung im Straßenverkehr. oRiZ 1973, S. 130 ff.

1250 Klebelsberg, Dieter; Versuche zu einer Verhaltensanalyse des Kraftfahrens. ZVR 1964, S. 141 ff.

1251 Klebelsberg, D.; Reaktionszeit des Kraftfahrers. ZVR 1965, S. 317 ff.

1252 Marek, Hans F.; Die Problematik der Strafbarkeit des Schwarzfahrens in schaffnerlosen Verkehrsmitteln. oJZ

- 1975, S. 261 ff.
- 1253 Marech, W.; (担当執照停止及取消事由) Der Verkehrsunfall in gerichtsmedizinischer Sicht) →1768.
- 1254 Schaffer, Otto; Die ideale Kreuzungsregelung. oRiZ 1956, S. 52 ff.
- 1255 Steininger, Herbert; Die Wahrung des Rechtsvorranges. ZVR 1963, S. 1 ff.
- 1256 Steininger, H.; Die Straßenverkehrsordnungs-Novelle 1964 und die Wahrung des Rechtsvorranges. ZVR 1964, S. 281 ff.
- 損害賠償 Rechtsfolgen gegen Verkehrszuwendungen
- 1257 Rappan, Richard; Die Straffreiheit wegen Sachschadenmeldung. ZVR 1964, S. 169 ff.
- 1258 Bartl, Heinrich; Die Entziehung der Berechtigung zum Lenken von Kraftfahrzeugen und die vorläufige Abnahme des Führerscheins. ZVR 1977, S. 1 ff.
- 1259 Egermann; (罰金の執行と執行の強制) Der „Fahrverbot“ in der BRD u. in Österreich) →1807
- 1260 Faber, Werner; Erfahrungen mit dem Bonus-Malus-System. ZVR 1978, Sonderh. S. 40 ff.
- 1261 Handel, Konrad; Die Verkehrsunterkarrei. ZVR 1958, S. 5 ff.
- 1262 Kammerhofer, Othmar; Die Verwaltungsubretention nach der StVO 1960. ZVR 1961, S. 1 ff., 29 ff.
- 1263 Lotheissen, Wolfgang; Die Problematik der strafrechtlichen Repression bei Verkehrsunfällen. ZVR 1970, S. 1 ff.
- 1264 Lotheissen, W.; Zur Problematik der strafrechtlichen Repression bei Verkehrsunfällen. Stellungnahme zu den „kritischen Anmerkungen“ Mayerhofers. ZVR 1970, S. 30 f.
- 1265 Mayerhofer, Christoph; Zur Problematik der strafrechtlichen Repression bei Verkehrsunfällen. Einige kritische Anmerkungen. ZVR 1970, S. 29 f.
- 1266 Schaubauer, Josef; Die Zwangsmittel zur Vollziehung der vorläufigen Abnahme des Führerscheins. ZVR 1957, S. 63 ff.
- 1267 Soche, Peter; Führerscheinentzug durch die Gerichte? Überlegungen zur Regierungsvorlage des Kraftfahrzeuggesetzes 1966. oRiZ 1967, S. 96 ff.
- 1268 Wattoilk, Erich; Der Alkoholmißbrauch im Straßenverkehr und seine Rechtsfolgen. ZVR 1966, S. 169 ff.
- 刑事法 Verfahrensrechtliches zum Verkehrs-(straf-)recht
- 1269 Gleissner, A.; (擔當執照の取得と停止の取消事由)

Voruntersuchung bei Verkehrsunfällen mit Fahrerflucht) → 1638.

1270 Handel; (罰金ノ下ニシテモ強奪自發禁條) Die zwangsweise Blutabnahme im Recht der BRD) →1626.

1271 Kollmann; (運輸車輛ノ運転ノ危険) Die gutachtliche Tauglichkeit des Kraftfahrzeug-Sachverständigen) →1615.

1272 Schwarz; (飲酒運転ノ禁止ノ規定ノ長期監禁) Anklageerhebung und Verfahrenseinstellung in Verkehrsstrafsachen) →1669.

1273 Suljok, Josef; Die Behandlung der tödlichen Verkehrsunfälle in der Gerichtspraxis. oJZ 1976, S. 260 ff.

1274 Wolfram; (飲酒ノ運転ノ危険) Der technische Sachverständige und der Verkehrsunfall) →1619.

1275 Wolkart; (刑罰法律ノ飲酒運転) Wie kann der Gerichtsmediziner zur Wahrheitsfindung beim Verkehrsunfall beitragen?) →1771.

運輸車輛ノ危険) Andere Verkehrsmittel als Fahrzeuge

1276 Frank, Herbert; Die Entwicklung des österreichischen Seilbahnwesens. ZVR 1969, S. 85 ff.

醫術医業) Ärztliches Strafrecht

1277 Breitenecker, Leopold; Verfahren wegen Verdacht auf ärztlichen Kunstfehler. oRiZ 1955, S. 158 ff.

1278 Loebenstein, Herbert; Die strafrechtliche Haftung des Arztes bei operativen Eingriffen. oJZ 1978, S. 309 ff.

1279 Worratsch—Triebiger; Richterliche Spezialisierung—Ärztliche Verantwortlichkeit—Der Zweck der Strafe. oRiZ 1975, S. 47 ff.

カーネーント民法第94) Strafrechtsreform in Österreich [Nr. 126-144]

1280 Broda, Christian; Schwerpunkte der österreichischen Strafrechtsreform in der XII. Gesetzgebungsperiode des Nationalrates. oRiZ 1970, S. 67 ff.

1281 Broda, Ch.; Strafrechtsreform 1971. oRiZ 1971, S. 181 ff.

1282 Broda; Zum Inkrafttreten des neuen österreichischen Strafgesetzbuches am 1. Jänner 1975. oRiZ 1975, S. 1.

1283 Bröll, H.; (犯罪御禁ノ禁止ノ長期監禁) 懲罰ノ長期) Versuche Verleitung, Verabredung im Strafgesetzentwurf) → 1386.

1284 Burgstaller, M.; (禁刑ノ禁止ノ長期監禁) Zur Täterschaftsregelung im neuen StGB) → 1391.

1285 Fischer; Mitwirkung der Vollziehung an der Gesetzgebung. oJZ 1969, S. 253 ff.

1286 Fischlschweiger, Hagen; Einige Worte zur Straf-

rechtsreform. öRiZ 1969, S. 19 ff., 73 ff.

1287 GampI; (一九六八年案之宗教感情) Das religiöse Gefühl als Schutzobjekt des StGB-Entwurfes 1968) → 1504

1287-a Graßberger; (竊盜案之罪狀) Die besonders leichte Falle des § 42 der Reg. Vorl. d. StGB-Entw.) → 1409.

1288 Graßberger; Die kriminalpolitischen Erfordernisse der Gegenwart und der österreichische Entwurf eines Strafgesetzbuches. Zur österreichischen Strafrechtsreform, 1965, S. 27 ff.

1289 Hartl, Friedrich; Strafrecht und Religion. Gedanken zur Säkularisierung des österreichischen Strafrechts. öJZ 1976, S. 426 ff.

1290 Haupt, Franz; Strafe und Verbrechen. Gedanken eines Statistikers zur Strafrechtsreform. öRiZ 1955, S. 35 ff.

1291 Kießwetter; (罪狀之小) Kleine Strafrechtsreform u. Jugendgerichtsbarkeit) → 1720.

1292 Kunst, Günther; Die Verkehrsdelikte nach der zweiten Lesung des Strafgesetzentwurfes. ZVR 1962, S. 197 ff.

1293 Lotheissen, Wolfgang; Die große Strafrechtsreform in der BRD. ZVR 1971, S. 257 ff.

1294 Malanuk, Wilhelm; Die Verkehrsdelikte im Straf-

gesetzentwurf. ZVR 1959, S. 201 ff., 221 ff.

1295 Melnitz; (一九七一年草案之保安設備) Kritische Bemerkungen zur Sicherungsverwahrung nach § 23 der RV 1971) → 1429.

1296 Moos (罪狀之修正) Die gesellschaftliche Funktion des StR u. die Strafrechtsreform) → 1010.

1297 Nowakowski Friedrich; Die Problematik eines Strafgesetzentwurfes unter besonderer Berücksichtigung des österreichischen Entwurfes. Zur österreichischen Strafrechtsreform, 1965, S. 9 ff.

1298 Nowakowski; Der deutsche Alternativentwurf und die österreichische Strafgesetzreform. öRiZ 1967, S. 171 ff.

1299 Nowakowski; Zur Strafrechtsreform in Österreich. öRiZ 1969, S. 139 ff.

1300 Nowakowski; (一日中) Das Tagessubstanzsystem in der RV 1971) → 1800.

1301 Nowakowski; (竊盜案之罪狀) Zuruckdrängung der kurzen Freiheitsstrafe in der RV. StG. → 1774.

1302 Pohl, T.; (竊盜案之罪狀) Zum Vorsatz im neuen StGB) → 1360.

1303 Reissig; (罪狀之修正) Die Weiterentwicklung des StR im Rahmen der StRRReform) → 1723.

1304 Rieder; (竊盜案之罪狀) Das neue Lebensmitttelgesetz) →

1122.

1305 Roeder; (民法の出入差を總論の註釋 Der systematische Standort der „Wahrnehmung berechtigter Interessen“) → 1334.

1306 Schick; (ホーケルトン民権論の出入差の總論の添註型 Die Entschuldbarkeit rechtsirrtümlicher Handlung) → 1383.

1307 Seiler; Neue Wege in der Strafrechtsreform. JBl. 1969, S. 113 ff.

1308 Stigelbauer; (ノルマヤキ條の改正の Vorbeugende Maßnahme des StGB-Entwurfes 1971) → 1431.

1309 Tschulnik, Otto; Strafrechtsreform und Gerichtssorganisation. öRiZ 1966, S. 133 ff.

1310 Tschulnik; (刑法條の改正の Die tätige Reue nach der RV) → 1414.

1311 Tschulnik; Zum Stand der Strafrechtsanpassung. öRiZ 1974, S. 181 ff.

1312 Vogl, Heinrich; Gedanken zur Regelung der Verkehrsdelikte im Strafgesetzentwurf. ZVR 1960, S. 145 ff.

民法 總論 Die Lehre vom Verbrechen

[Nr. 145—155]

I 總論 Im allgemeinen

1313 Zagler, Wolfgang; Die mangelnde Strafwürdigkeit der Tat. oJZ 1975, S. 346 ff.

1314 Zagler, W.; Zur Anwendung des § 42 StGB. oJZ 1976, S. 347 ff.

因果關係 Kausalzusammenhang

[Nr. 156—158]

1315 Schild; Unterbrechung des Kausalzusammenhanges. öRiZ 1974, S. 109 ff.

行刑・不作為犯 Tun und Unterlassen

[Nr. 159—161]

1316 Moos; Die finale Handlungslehre. StProbl. II, 1974, S. 5 ff.

1317 Bertel; (不作為犯の公條の註釋 Der Amtsmissbrauch durch Unterlassen) → 1523.

1318 Kienapfel; Aktuelle Probleme der unechten Unterlassungsdelikte. StProbl. II, 1974, S. 77 ff.

1319 Kienapfel, Diethelm; Die Garantpflichten (§ 2 StGB): System, Voraussetzungen und Grenzen. JBl. 1975, S. 13 ff., 80 ff.

1320 Kienapfel, D.; Zur Gleichwertigkeit von Tun und Unterlassen oJZ 1976, S. 197 ff

1321 Kienapfel, D.; Zur Abgrenzung von Tun und Unterlassen. oJZ 1976, S. 281 ff.

1322 Kienapfel; (被加害者側の被害の程度を類型) Die Zumutbarkeit der Hilfeleistung) → 1460.

1323 Kienapfel; (加害者側の Aussetzen od. Inmitletzen eines Verletzten) → 1460.

1324 Mayer-Maly, Theo; Schädigung durch Unterlassung, insbesondere durch unterlassene Hilfeleistung bei Verkehrsunfällen. ZVR 1977, S. 97 ff.

1325 Wegscheider; (補償責任の発生を米穀の中心に Versuch und Rücktritt beim schlichten Unterlassungsdelikt) → 1390.

柳井鑑 Rechtswidrigkeit

[Nr. 161a—166]

I 類 Im allgemeinen

1326 Esser, Josef; Unrecht, Schuld und Strafe im Licht der materiellen Wertethik. Festschr. f. Th. Rittler, 1946, S. 7 ff.

1327 Hörburger, Kurt; Zum Problem des Rechtswidrigkeitszusammenhanges. ZVR 1973, S. 97 ff.

1328 Lambauer, Heimo; Der Rechtswidrigkeitszusammenhang als Problem des Verkehrsstrafrechts. Eine kritische Betrachtung der Judikatur. ZVR 1971, S. 225 ff.

1329 Welsler, Rudolf; Der OGH und der Rechtswidrigkeitszusammenhang. oJZ 1975, S. 1 ff., 37 ff.

1330 Seiler, Robert; Die Bedeutung des Handlungswertes im Verkehrsstrafrecht. Festschr. f. Maurach, 1972, S. 75 ff.

1331 Kadečka, Ferdinand; Nicht rechtswidrige strafbare Handlungen. Festschr. f. Rittler, 1946, S. 32 ff.

1332 Burgstaller; Zum Standort des erlaubten Risikos. oJZ 1970, S. 384 f.

1333 Glassl; (賠償の範囲を如何に決定するに依る Vertrauensgrundsatz u. erlaubtes Risiko) → 1372.

1334 Roeder; Der systematische Standort der „Wahrnehmung berechtigter Interessen“ im Spiegel der Strafrechtsreform. Festschr. f. Heinitz, 1972, S. 229 ff.

II 類 Einwilligung

1335 Burgstaller; Zur Einwilligung im Strafrecht. oRIZ 1977, S. 1 ff.

1336 Kunst, Gunther; Ärztliche Heilbehandlung und Einwilligung des Verletzten. oRIZ 1975, S. 33.

1337 Zipf; Zur Einwilligung im neuen Strafrecht, insbesondere beim Zusammentreffen mehrerer Rechtsgüter in einem Straftatbestand. oRIZ 1976, S. 192 ff.

1338 Zipf, Heinz; Die Bedeutung und Behandlung der Einwilligung im Strafrecht. oJZ 1977, S. 379 ff.

- 1339 Harbich, Heribert; Das Recht zu sterben—Lebensverlängerung um jeden Preis. oRIZ 1968, S. 115 ff.
- 1340 Horburger, Kurt; Zur strafrechtlichen Beurteilung von Lawinenunfällen. oRIZ 1969, S. 179 f.
- 田部之輔田 Rechtfertigungsgrund
- 1341 Kienapfel, Diethelm; Der rechtfertigende Notstand. oJZ 1975, S. 421 ff.
- 1342 Kienapfel; Der rechtfertigende Notstand. StPröbl. III, 1975, S. 39 ff
- 1343 Nowakowski, Friedrich; Zur subjektiven Tatseite der Rechtfertigungsgrundlage. oJZ 1977, S. 573 ff.
- 1344 Roeder; Haftung für durch riskantes Verhalten verursachte Erfolge. oJZ 1970, S. 378 ff.
- 概論 Schuld
- I 総 Im allgemeinen
- [Nr. 167-176]
- 1345 Lotheissen, Wolfgang; Die Schuldformen des StGB aus der Sicht des Praktikers. oRIZ 1975, S. 93 ff.
- 1346 Esser, J.; (概論犯罪論) 罪の成立阻害事由 Unrecht, Schuld und Strafe im Licht der materiellen Wertethik) → 1326.
- 1347 Hohenleitner, Siegfried; Schuld als Werturteil. Festschr. f. Rittler, 1957, S. 185 ff.
- 1348 Kienapfel, Diethelm; Dogmatische Probleme der Unzumutbarkeit Zur Regelung der §§ 94 Abs 3, 95 Abs 2 und 286 Abs 2 StGB. JBl. 1977, S. 530 ff.
- 1349 Kunst; (罪の構成) 犯罪構成の要素の過剰防衛 Strafbemessung, Tatschuld und Spezialprävention) → 1411.
- 1350 Nowakowski; Freiheit, Schuld und Vergeltung. Festschr. f. Rittler, 1957, S. 55 ff.
- 1351 Roeder, Hermann; Das Schuld- und Irrtumsproblem beim Vollrausch. Festschr. f. Rittler, 1957, S. 211 ff.
- 概論 責任 Zurechnungsfähigkeit
- [Nr. 177]
- 1352 Bertel, Christian; Die Zurechnungsfähigkeit. oJZ 1975, S. 622 ff.
- 1353 Hartl, Friedrich; Der Geistesranke und sein Recht auf persönliche Freiheit. Ein Rückblick zur Besinnung. oJZ 1975, S. 88 ff.
- 1354 Lenz, Hermann; Das Ausmaß der Schuldfähigkeit beim neurotischen bzw. psychopathischen Delinquenten. JBl. 1973, S. 25 ff.
- 1355 Reisner, H.; Probleme der Beurteilung der strafrechtlichen Zurechnungs(un-)fähigkeit unter besonderer

Berücksichtigung des Strafgesetzentwurfes vom klinisch-psychologischen Standpunkt. oJZ 1973, S. 262 ff.

1356 Seelig; Zum Problem der Neufassung des § 51. Festschr. f. Mezger, 1954, S. 213 ff.

1357 Stumpf, F. J.; Fortschritte der Psychiatrie zur Frage der Zurechnungsfähigkeit. oRiZ 1971, S. 145 ff.

1358 Stumpf, F. J.; Psychiatrie und das neue Strafrecht. oRiZ 1978, S. 149 ff.

採 輯 Vorsatz

[Nr. 178—181]

1359 Platznummer; Vorsatz und Unrechtsbewußtsein. St-Probl. 1, 1973, S. 35 ff.

1360 Pohl, Toni; Zum Vorsatz im neuen Strafgesetzbuch. oJZ 1974, S. 482 ff.

1361 Wegscheider, Herbert; Der Vorsatz bei normativen Tatbestandsmerkmalen. Das Problem der „Parallelwertung in der Laiensphäre“. JBl. 1974, S. 192 ff.

學 Fahrlässigkeit

[Nr. 182—185]

1362 Burgstaller; Grundzüge einer neuen Fahrlässigkeitsdogmatik. St-Probl. 1, 1973, S. 105 ff.

1363 Herz, Wilhelm; Über juristische Wahrscheinlichkeit. oRiZ 1958, S. 32 ff.

1364 Hörburger, Kurt; Zum Begriff der Fahrlässigkeit des § 6 StGB. oJZ 1974, S. 562 ff.

1365 Kienapfel, Diethelm; Die Fahrlässigkeit unter besonderer Berücksichtigung des Straßenverkehrs. Zugleich ein Beitrag zur Lehre von der objektiven Zurechnung. ZVR 1977, S. 129 ff., 162 ff.

1366 Kral; Die Fahrlässigkeitsdelikte. oRiZ 1968, S. 25 ff.

1367 Lustig, Johann; Kritische Betrachtungen über Fahrlässigkeitsdelikte, objektive Konnexität und Jugendschutzsachen. oRiZ 1955, S. 2 ff.

1368 Schick, Peter J.; Die „einleitende Fahrlässigkeit“. Eine neue Rechtsfigur in der Judikatur des OGH? oJZ 1974, S. 257 ff., 281 ff.

1369 Dietrich, Erwin; Zur Anerkennung des Vertrauensgrundsatzes im künftigen Verkehrsstrafrecht. ZVR 1960, S. 172 ff

1370 Glassl, Karl; Der Vertrauensgrundsatz. ZVR 1961, S. 73 ff.

1371 Glassl, K.; Nochmals: Der Vertrauensgrundsatz.

ZVR 1961, S. 169 f.

1372 Glassl, K.; Der Vertrauensgrundsatz und das

★ 犯 罪 共 同 体 及 参 与

〔Nr. 195—196〕

1391 Burgstaller; Zur Täterschaftsregelung im neuen StGB. oRiZ 1975, S. 13 ff., 29 ff.

1392 Burgstaller; Versuch und Rücktritt vom Versuch. StPröbl. III, 1975, S. 7 ff.

1393 Burgstaller; Der Versuch nach § 15 StGB. JBl. 1976, S. 113 ff

1394 Kienapfel D.; Probleme der Einheitstäterschaft. St-Pröbl. I, 1973, S. 63 ff.

1395 Kienapfel; Die Einheitstätersregelung der §§ 12 ff und 32 ff StGB. JBl. 1974, S. 113 ff., 180 ff.

1396 Kienapfel; Zur Täterschaftsregelung im StGB. Eine Erweiterung auf den gleichnamigen Beitrag von Burgstaller in Rz 1975, 13 ff., 29 ff. oRZ 1975, S. 165 ff.

1397 Roeder, Hermann; Der Unbegriff des „extranen“ Täters und der „eigenhandigen“ Delikte (zu § 14 Abs 1 StGB). JBl. 1975, S. 561 ff.

1398 Zipf, Heinz; Die mittelbare Täterschaft und ihre Einordnung in § 12 StGB. oJZ 1975, S. 617 ff.

罪 競 合 競 争

〔Nr. 197—200〕

1399 Burgstaller, Manfred; Die Scheinkonkurrenz im Strafrecht. JBl. 1973, S. 393 ff., 459 ff.

1400 Hackl; (犯罪競合と罪の競合) 罪の競合 Die Strafzumessung beim Zusammentreffen strafbarer Handlungen im Verwaltungsstrafrecht) → 1410.

罪 論 總 論 Die Lehre von der Strafe

一 策 Im allgemeinen

1401 Esser, J.; (罪の責任と責任の程度) 罪の責任 Unrecht, Schuld und Strafe im Licht der materiellen Wertethik) → 1326.

1402 Nowakowski, F.; (犯罪の責任と責任の程度) Schuld, Vergeltung) → 1350.

1403 Bellavici, Hanns; Psychopathie und Strafe. oRiZ 1963, S. 161 ff.

1403a Geijer, Lennart; Einige Gesichtspunkte zum Freiheitsentzug im Strafrecht. Festschr. f. Broda, 1976, S. 49 ff.

1404 Lindacher, Walter F.; Konventionalstrafe und „Vergeltungsbetrug“.

1405 Worausch—Triebiger; (犯罪の責任と責任の程度) 罪の責任 Richterliche Spezialisierung—Arztliche Verantwortlichkeit—Der Zweck der Strafe) → 1279.

1406 Baumann, Jürgen; Besteht heute die Möglichkeit, die Freiheitsstrafe bis zu 6 Monaten zu beseitigen. oRiZ

1969, S. 112 ff.

1407 Hartl, Friedrich; Die Freiheitsstrafe in Österreich. Anfang und Entwicklungstendenzen. oJZ 1977, S. 313 ff.

罪の量度 Strafzumessung

1408 Adam, Robert; Debatte über das Strafmaß in den USA. oRiZ 1977, S. 187 f.

1409 Grabberger; Die besonders leichten Fälle des § 42 der Regierungsvorlage eines Strafgesetzbuches. oJZ 1973, S. 64 ff.

1410 Heckl, Wolfgang; Die Strafzumessung beim Zusammenreffen strafbarer Handlungen im Verwaltungsstrafrecht. — Versuch einer Neuregelung. oJZ 1977, S. 365 ff.

1411 Kunst, Gunther; Strafbemessung, Tatschuld und Spezialprävention. oJZ 1977, S. 481 ff.

1412 Kunst, G.; Fragen der Strafbemessung in der Rechtsprechung des Obersten Gerichtshofes. oRiZ 1978, S. 117 ff.

1413 Nowakowski; Probleme der Strafzumessung. Str-Probl. II, 1974, S. 167 ff.

1414 Tschulnik, Otto; Die tätige Reue nach der Regierungsvorlage. oJZ 1973, S. 653 ff.

罪 刑 Rückfall

1415 Grabberger; Die Bedeutung des Rückfalls. StrProbl.

I, 1973, S. 11 ff.

1416 Rieder; (起訴後罪状変更論の意義 Die Unterbringung in einer Anstalt für gefahr. Rückfallater) → 1790.

1417 Schuster-Bonnott, Walther; Die Gefahr des Zuwiderhandelns gegen Unterlassungsverpflichtungen (Wiederholungsgefahr) JBl. 1974, S. 169 ff.

条件付きの罪状 Bedingte Verurteilung

1418 Pichler-Drexler, Erwin; Die echte bedingte Verurteilung nach § 13 oJGG: Kritik und Folgerungen. oRiZ 1986, S. 33 ff.

1419 Pieringer; Bedingte Verurteilung zu einem Teil der Hauptstrafe? JBl. 1969, S. 143 f.

免許の剥奪 Entziehung der Lenkerberechtigung

1420 Nowakowski, Friedrich; Entziehung der Lenkerberechtigung und Fahrverbot. Zusatzliche Überlegungen zu einem jüngst erschienenen Aufsatz. ZVR 1975, S. 257 f.

1421 Probst, Karlheinz; Entziehung der Lenkerberechtigung und Fahrverbot. ZVR 1975, S. 129 ff.

罪状の改善 Besserungs- und Sicherungsmaßnahme

[Nr. 231—238]

1422 Nowakowski; Zur Rechtsstaatlichkeit der vorbeugenden Maßnahmen. Festschr. f. v. Weber, 1963, S. 98 ff.

1423 Seelig, Ernst; Der Ausbau vorbeugender Maßnahmen im österreichischen Strafrecht. Festschr. f. Ritter, 1946, S. 69 ff.

1424 Fleisch; (罪状或々種罪並科の總論) Das Strafgesetzbuch und der psychiatrische Sachverstandes) → 1613.

1425 Hauptmann, Walter; Kriminalthérapeutische Möglichkeiten an abnormen Sexualdelinquenten. oRiZ 1973, S. 44 ff.

1426 Hauptmann, W.; Psychochirurgie an Triebkranken — ein Rechtsproblem? oRiZ 1975, S. 144 ff.

1427 Hoff, H. u. Sluga, W.; Geisteskranke Rechtsbrecher in psychiatrischen Krankenanstalten und die für eine moderne Psychiatrie sich daraus ergebenden Nachteile. oJZ 1969, S. 63 ff.

1428 Karger, Irene; Sozialtherapie an Jugendlichen in der Untersuchungshaft. öJZ 1976, S. 319 ff.

1429 Melnitz; Kritische Bemerkungen zur Sicherungswahrung nach § 23 RV 1971. JbL 1972, S. 465 ff.

1429a Nowakowski, Friedrich; Die Maßnahmenkomponente im StGB. Festschr. f. Broda, 1976, S. 193 ff.

1430 Obauer; Vorbeugende Maßnahmen. oRiZ 1968, S. 30 ff.

1431 Sigelbauer; Bedarf der Katalog der vorbeugenden

Maßnahmen des Strafgesetzentwurfes 1971 einer Ergänzung? JbL 1972, S. 345 ff.

1432 Zarl, Josef; Die vorläufige Verwahrung. oRiZ 1961, S. 31 ff.

保釋制度 保釋ungs Hilfe

1433 Becker, A. M.; Psychiatrische Systematik und Chancen der Bewahrungshilfe. oRiZ 1966, S. 74 ff.

1434 Doleisch, Wolfgang; Zur Geschichte und Problematik der Bewahrungshilfe. öRiZ 1961, S. 105 ff.

1435 Hackauf, Friedrich; Die vorläufige Bewahrungshilfe. öRiZ 1962, S. 177 ff.

1436 Höhngschmid, Franz; Die Bewahrungshilfe als Aufgabe des Richters. oRiZ 1965, S. 72 ff.

1437 Kodek; (少年犯の保釋制度の法理) 保釋制度と Jugendstrafvollzug u. Bewahrungshilfe in den USA) → 1787.

1438 Kunst, Gunther; Bewahrungshilfe für ältere Erwachsene erst ab 1979? oRiZ 1976, S. 111 f.

1439 Reishofer, Wolfgang; Die „Bewahrungshilfe“ aus der Sicht des Richters. oRiZ 1960, S. 125 ff.

1439a Schilder, Elisabeth; Strafvollzug in Freiheit. Festschr. f. Broda, 1976, S. 267 ff.

— 罪 殺 — Verjährung

[Nr. 226—227]

1440 Burgstaller, Manfred; Zur Frage der Verjährungsfristen für § 335 StG. oRiZ 1974, S. 1 ff.

1441 Haslmayr, Alfred; Zur Frage der Unterbrechung der Verjährung im Sinne der Bestimmungen der §§ 227 und 531 StG. oRiZ 1971, S. 55 ff.

— 罪 殺 未 遂 — Gnade

[Nr. 239—251]

1442 Klecztzky; Gedanken zu einer Neugestaltung des Gnadenrechts. JBl. 1968, S. 225 ff.

1443 Klusemann, Erich; Kriminalpolitische Möglichkeiten des Gnadenrechts. öRiZ 1962, S. 213 ff.

1444 Mann, Paul; Praktische Winke für den Richter bei der Durchführung des Gnadenverfahrens und der Anlegung der Gnadentabelle. oRiZ 1963, S. 117 ff.

1445 Zima, Herbert u. Siegl, Gerhard; Die automatische Tilgung von strafrechtlichen Verurteilungen in Österreich. oRiZ 1975, S. 65 ff.

— 罪 刑 — Strafrecht Besonderer Teil

— 罪 刑 類 — Delikt gegen Individualinteresse

[Nr. 252—260]

— 罪 刑 類 — Mord

1446 Gross, Wolfgang u. Welan, Manfred; Der verfassungsrechtliche Schutz des menschlichen Lebens. oJZ 1978, S. 1 ff.

1447 Wiesbauer, Bruno; Die Empfehlungen des Europarats zur Vereinheitlichung des Schadensersatzes bei Körperverletzung und Tötung. oRiZ 1977, S. 4 ff., 24 ff.

1448 Jarosch, Klaus; Agonie und Todeseintritt in ihrer rechtlichen Konsequenz. oRiZ 1971, S. 163 ff.

1449 Wach, Eva; Strafrechtliche Probleme des Selbstmords. oJZ 1978, S. 479 ff.

— 罪 刑 類 — Schwangerschaftsunterbrechung

1450 Grimm, Dieter; Die Fristenlosungsurteile in Österreich und Deutschland und die Grundrechtstheorie. JBl. 1976, S. 74 ff

1451 Kienapfel, D.; Frühabort und Strafrecht. JBl. 1971, S. 175 ff.

1452 Lentner, Gerwald; Die Bestrafung der Abtreibung in historischer Sicht. oRiZ 1973, S. 191 ff.

1453 Marschall, K.; Grundsatzfragen der Schwangerschaftsunterbrechung im Hinblick auf die verfassungsgesetz-

lich gewährleisten Rechte auf Leben. JBl. 1972, S. 497 ff.

1453a Rosenzweig, Wilhelm: Drei Verfassungsgerichte zur Fristenlösung. Festschr. f. Broda, 1976, S. 231 ff.

1454 NN: Unterbrechung der Schwangerschaft in der BRD. oRiZ 1973, S. 132 ff.

—**侵害身体罪**— Körperverletzung

1455 Lotheissen, Wolfgang: Das ärztliche Aufklärungsproblem nach dem Strafgesetzbuch. oRiZ 1975, S. 2 ff.

1456 Rieder, Maria A.: Die strafrechtliche Beurteilung von Organtransplantationen de lege lata et ferenda. oJZ 1978, S. 113 ff.

1457 Kienapfel, Diethelm: Zur Auslegung des § 81 Z 1 StGB. oJZ 1977, S. 655 ff.

—**脅嚇罪**— Aussetzung

1458 Kienapfel, D.: Die Verletzung der Unterhaltspflicht (§ 198 StGB). oRiZ 1976, S. 46 ff.

1459 Kienapfel: Imstichlassen eines Verletzten (§ 94 StGB). Wesen, Voraussetzungen, Grenzen. oJZ 1977, S. 425 ff.

1460 Kienapfel: Die Unzumutbarkeit der Hilfeleistung beim Imstichlassen eines Verletzten (§ 94 Abs 3 StGB). oRiZ 1977, S. 65 ff.

1461 Kienapfel: Die Unterlassung der Hilfeleistung (§ 95 StGB). Wesen, Struktur und Grenzen. ZVR 1977, S. 289 ff.

1462 Kienapfel: Aussetzung (§ 82 StGB) oder Imstichlassen eines Verletzten (§ 94 StGB)? oRiZ 1978, S. 4 ff.

1463 Korner, Alfred: Der Unterhaltsverweigerer und seine strafrechtliche Behandlung. oRiZ 1964, S. 123 f.

1464 Lustig, Johann: Die strafbare Unterhaltsgefährdung. oRiZ 1965, S. 133 ff.

1465 Piska, Kari: Nochmals: Der Unterhaltsverweigerer und seine strafrechtliche Behandlung. oRiZ 1964, S. 191 f.

—**胁迫身体罪**— Erpressung u. Nötigung

1466 Rittler, Theodor: Erpressung oder statthafte Einführung auf fremden Willen? oRiZ 1957, S. 139 ff.

1467 Stielbauer, Ferdinand: Nötigung und Erpressung im neuen Strafrecht. oJZ 1974, S. 645 ff.

—**侮辱身体罪**— Ehrenverletzung

1468 Proske, Manfred: Der strafrechtliche Ehrenschutz im Lichte des Entwurfes eines Mediengesetzes. oJZ 1977, S. 1 ff.

1469 Marschall u. Orlik: Die Tathandlung des „Ankündigungens“ nach § 67 StG. in der praktischen Anwendung. oJZ 1970, S. 385 ff.

- 1470 Roeder, Hermann; Der Schutz der Intimsphäre de lege ferenda. oRiZ 1972, S. 57 ff.
- 1471 Roeder; Wahrheitsbeweis und Indiskretionsdelikt nach deutschem und österreichischem Strafgesetzentwurf. Festschr. f. Maurach, 1972, S. 347 ff.
- 1472 Sandt, Adolf; Der Schutz des Brief- und Schriftengeheimnisses in Rechtslehre und Rechtsprechung. oRiZ 1962, S. 182 ff., 209 ff.
- 盜擄罪 — Vermögensdelikte
- 1473 Buchgraber; Die Vermögensdelikte. oRiZ 1968, S. 16 ff.
- 1474 Marschall, Karl; Unbestimmte geldwerte Grenzbeträge, insbesondere Wertgrenzen, im StGB. oJZ 1975, S. 459 ff.
- 1475 Müller-Dietz, Heinz; Kriminalpolitische und dogmatische Probleme des Straftaufhebungsgrundes der tätigen Reue (§ 167 StGB). oJZ 1977, S. 343 ff
- 1476 Wegscheider, Herbert; Plötzliches Entreißen einer Sache - Raub oder Diebstahl? oJZ 1975, S. 516 ff
- 1477 Bulla, Franz; Diebstahl und unbefugter Betrieb von Fahrzeugen. ZVR 1957, S. 81 ff., 104 ff.
- 1478 Burgstaller, Manfred; Diebstahl, Veruntreuung und Unterschlagung. oJZ 1974, S. 540 ff
- 1479 Jarosch, Klaus - Müller, Otto; Der Warenhausdiebstahl in medizinischer und strafrechtlicher Sicht. oRiZ 1968, S. 39 ff., 59 ff.
- 1480 Laich, Mario; Bemerkungen zum Dienstdiebstahl. oJZ 1976, S. 388 ff.
- 1481 Lotheissen, Wolfgang; Der „Autodieb“. (Betrachtungen zum Problem der Abgrenzung der §§ 171 und 467 b StG). ZVR 1966, S. 141 ff.
- 1482 Lustig, Johann; Die rechtlichen Beziehungen des Tatbestandes des unbefugten Fahrzeugbetriebes zu den Tatbeständen des Diebstahls und der boshaften Beschädigung fremden Eigentums. oRiZ 1957, S. 2 ff.
- 1483 Lustig, J.; Die neue Judikatur zu § 467 b StG. und die Zusammenschau des Tatbestandes des unbefugten Fahrzeugbetriebes mit den Tatbeständen gegen die Sicherheit des Lebens. oRiZ 1957, S. 17 f.
- 1484 Nurscher; Ruckfallsdiebstahl und bedingte Verurteilung. JBl. 1971, S. 81 ff.
- 1485 Welser, Rudolf; Zur Ersetzbarkeit von Detektivkosten beim Warenhausdiebstahl. oJZ 1977, S. 645 ff.
- 1486 Bertel, Christian; Der Schaden des Betrogenen. oJZ 1977, S. 201 ff.
- 1487 Liebscher, Viktor; Betrug im Gebrauchswagenhan-

- 1505 Liebscher, V.; „Religioses Gefühl“ und Strafgesetz. JBl. 1971, S. 114 ff.
- 1506 Linke, Robert; Die internationale Konferenz über die widerrechtliche Inbesitznahme von Luftfahrzeugen (Den Haag, 1. — 16. 12. 1970). ZVR 1971, S. 57 ff.
- 1507 Lotheissen, Wolfgang; Der strafrechtliche Objektschutz im Bereich von Eisenbahnen. ZVR 1969, S. 113 ff.
- 1508 Lustig, Johann; Vergleichende Darstellung der Strafbarkeit der Verkehrsunfallflucht und der unterlassenen Hilfeleistung im deutschen und österreichischen Recht. ZVR 1960, S. 51 ff.
- 1509 Melnizky, Walter; „Der strafrechtliche Subjektschutz im Bereich von Eisenbahnen.“ ZVR 1969, S. 141 ff.
- 1510 Nowakowski; Zur Auslegung des § 337 lit a und b StG. ZVR 1970, S. 170 ff.
- 1511 Wiehaup, H.; Die Lärmbekämpfung in der Bundesrepublik Deutschland in rechtlicher Sicht. oRiZ 1963, S. 3 ff.
- 1512 Grabberger; Zur Strafwürdigkeit der Sittlichkeitsdelikte. Festschr. f. Eb. Schmidt, 1961, S. 333 ff.
- 1513 Schick, Peter J.; Die „Unzucht“, Ein Problem der „Parallelerwertung im Instanzenzug“. oJZ 1976, S. 96 ff.
- 1514 Schlosser, Fritz; Unzuchthandlungen an gleichgeschlechtlichen Unmündigen. oRiZ 1959, S. 21 f.
- 1515 Pallin, Franz; Ehebruch und Fehelosung in strafrechtlicher Sicht. oRiZ 1970, S. 114 ff.
- 1516 Krensetter, Antoni; Zur Auslegung der Begriffe „unzuchtig“ und „anstoßig“ in den §§ 1 und 2 des Gesetzes vom 31. 3. 1950 BGBI 97 („Pornographie G“). oJZ 1973, S. 92 ff.
- 1517 Hopfel, Frank; Probleme des Glücksspielstrafrechts. oJZ 1978, S. 421 ff., 458 ff.
- 1518 Roeder H.; (酒類とギャンブルの輸出と輸入) Das Schuld- und Irrtumproblem beim Volltausch) →1351.
- 1519 Separović, Zvonimir; Die Bewertung der Trunkenheit im Strafrecht. ZVR 1969, S. 225 ff.
- 1520 Melnizky, Walter; Zur Auslegung des § 337 lit. a Strafgesetz. ZVR 1967, S. 253 ff.
- 1521 Melnizky, W.; Zur subjektiven Tatseite nach § 337 lit b StG. ZVR 1972, S. 193 ff.
- 1522 Barchetti, Theodor; Ist die Tätigkeit behördlich-koncessionierter Ausgleichsvermittler tatsächlich strafgesetzbuchwürdig? oJZ 1977, S. 263 f.

監獄叢書 Delikte gegen Staatsinteresse
[Nr. 252—260]

1523 Bertel; Der Amtsmissbrauch durch Unterlassen. JBl. 1970, S. 345 ff.

1524 Müller, Otto F.; Die Zulässigkeit des Einsatzes staatlicher Gewalt in Ausnahmestituationen aus der Sicht des österreichischen Strafrechts. oRiZ 1976, S. 1 ff.

1525 Pallin, Franz; Amtsgeheimnis und Redaktionsgeheimnis. öJZ 1973, S. 141 ff.

1526 Simma; Die § 338 und 339 der Regierungsvorlage eines Strafgesetzbuches im Lichte des Volkerrrechts. JBl. 1968, S. 458 ff.

1527 Zoder, Johann; Zur Auslegung des § 81 StG. öRiZ 1957, S. 19 ff.

司法制度 司法wesen

[Nr. 301—310]

I 條 Im allgemeinen

1528 Graßberger; Sinn und Unsinn der Strafrechtspflege. StProbl. III, 1975, S. 69 ff.

1529 Huber, Heinz; Das Weltjahr der Menschenrechte und die Unabhängigkeit der Rechtsprechung. oRiZ 1969, S. 37 f.

1530 Kaniak, Gustav; Über die Beratung und Abstimmung in behördlichen Kollegien. JBl. 1978, S. 470 ff.

1531 Keller, Heinrich; Justiz und Politik. oRiZ 1974, S. 17 ff., 33 ff.

1532 Klecatsky, Hans R.; Grußworte an die Richter und Staatsanwälte. oRiZ 1966, S. 73.

1533 Klecatsky; Föderalismus und Gerichtsbarkeit. JBl. 1969, S. 13 ff.

1534 Laich, Mario; Entwicklung der Strafrechtspflege in Tirol und Voralberg. Hundert Jahre, 1973, S. 73 ff.

1535 Schuster, Johann; Grundprobleme unseres Berufsstandes. Eine Studie zur Personalpolitik. oRiZ 1962, S. 257 ff., 1963, S. 77 ff., S. 181 ff., 1965, S. 51 ff.

1536 Schuster, J.; Nachwuchsfragen. oRiZ 1966, S. 37 ff., 55 ff.

1537 Schuster, J.; Gedanken zur Justizreform. oRiZ 1970, S. 85 ff.

1538 Spiel, Walter; Tiefenpsychologische Gesichtspunkte in der Rechtspflege. oRiZ 1977, S. 185 ff.

1539 Tschulik (民衆部局の権限と職權 Strafrechtsreform und Gerichtsorganisation) →1309.

外國 Auslandsschau

1540 Bajory, Pal; Das Oberste Gericht der Ungarischen Volksrepublik. oRiZ 1974, S. 187.

- 1541 Derbolav, Dietrich; Richter und Gericht in der Türkei. oRiZ 1971, S. 19 f.
- 1542 Ertl, Gunter; Gerichtsbarkeit in Japan. oRiZ 1967, S. 78 ff.
- 1543 Ertl, G.; Gerichtsbarkeit in Pakistan. oRiZ 1971, S. 94 ff.
- 1544 Honigschmid, Franz; Die Generalversammlung 1960 der englischen Laienrichter (Magistrates) in London. (Eindrücke von einem Kongreß). oRiZ 1960, S. 185 f.
- 1545 Jensis, Felix; Der italienische Oberste Gerichtshof. oRiZ 1966, S. 6 f.
- 1546 Jensis, F.; Die Stellung der Richter in Belgien. oRiZ 1966, S. 43 f.
- 1547 Marcic, René; Der Richter in der Demokratie. oRiZ 1968, S. 5 ff.
- 1548 Piegler, Josef; Der österreichische Oberste Gerichtshof in England. oRiZ 1963, S. 201 f.
- 1549 Piegler, J.; Das Richtertum in den Verfassungen Europas. (Zugleich eine Besprechung des Buches „Die Verfassungen Europas“ von P. C. Mayer-Tasch. 2. Aufl., 1975). oRiZ 1976, S. 85 f.
- 1550 Schuppich, Walter; Die deutschen Rechtsanwältinnen. oJZ 1974, S. 291 ff.
- 1551 Terlitzka, Arno; Die Justiz in Südafrika. oRiZ 1967, S. 189 ff.
- 1552 Woratsch, G. u. Triebnigg, E.; Der V. Kongreß der internationalen Vereinigung der Richter. oRiZ 1975, S. 45 ff.
- 裁判官・裁判官の職務 - Richter
- 1553 Broda, Christian; Das Richterdienstgesetz und der Rechtsstaat. oRiZ 1962, S. 91 ff.
- 1554 Bröll, Heinrich; Das Richterdienstgesetz - Erfolg oder Mißerfolg. oRiZ 1962, S. 93 ff.
- 1555 Broll, H.; Richterernennung und Richterautonomie. oRiZ 1970, S. 107 ff.
- 1556 Bydlinki; (裁判官の職務と権限) Die Grundrechte in Relation zur richterlichen Gewalt) →1864.
- 1557 Ertl, Gunter; Moderne Gerichtsgebäude - eine Aufgabe für die Architekten von heute. oRiZ 1968, S. 163 ff.
- 1558 Gamerrich, Helmut; Gerichtstermin - Ausbau oder Abschaffung? oRiZ 1972, S. 173 ff.
- 1559 Gorbach, Alfons; Das Richterdienstgesetz - Garant der Rechtsstaatlichkeit! oRiZ 1962, S. 89 f.
- 1560 Huber, Heinz; Das Richterdienstgesetz 1961 - Abschluß oder Anfang. oRiZ 1962, S. 106 ff.
- 1561 Jesionek, Udo; Wege und Ziele der richterlichen

Standespolitik. öRiZ 1976, S. 25 ff.

1562 Jesionek, U.; Die Neuordnung des Richterdienst- und Besoldungsrechtes: vor dem Abschluß der ersten Etappe. öRiZ 1978, S. 141 ff.

1562a Keller, Heinrich; Die demokratische Legitimation des Richters. Festschr. f. Broda, 1976, S. 121 ff.

1563 Klecatsky, Hans R.; Der Oberste Gerichtshof und das föderalistische Prinzip. öRiZ 1967, S. 113 ff.

1564 Marcic; Der Richter in der Demokratie. JbL 1968, S. 393 ff., 450 ff.

1564a Pallin, Franz; Oberster Gerichtshof und Generalprokurator. Festschr. f. Broda, 1976, S. 215 ff.

1565 Piegler, Josef; Die Zukunft des Obersten Gerichtshofes. öRiZ 1968, S. 149 ff.

1566 Piegler, J.; Abschaffung der Gerichtsferien? öRiZ 1972, S. 177.

1567 Schragel, Walter; Der österreichische Richter in der modernen Gesellschaft. öRiZ 1973, S. 37 ff., 57 ff.

1568 Schuster, Johann; Struktur und Zukunft des österreichischen Richterstandes. öRiZ 1957, S. 149 ff.

1569 Tschadek, Otto; Den Richtern und Staatsanwälten zum Gruß. öRiZ 1956, S. 97.

1569-a Woratsch—Trieblnigg; (緑葉の聲に) Ärztliche Ver-

antwortlichkeit - Der Zweck der Strafe)→1279.

1570 Richterstatistik zum 1. 4. 1976. öRiZ 1976, S. 94.

櫻葉の Staatsanwalt

1571 Liebscher, Viktor; Aus der Geschichte der Generalprokurator. Hundert Jahre, 1973, S. 107 ff.

牛糞の Verteidiger

1572 Heller, Kurt; Sind Ombudsman und Rechtsanwaltschaft Konkurrenten? oJZ 1975, S. 169 ff.

栗鼠の Strafvollstreckungsrecht

[Nr. 311 ff.]

I 第 1 n allgemeinen

1573 Fleisch; (樹木を伐採するに際して) Schwere Verkehrs-kriminalität und Strafgerichtsbarkeit) →1754.

1574 Foregger; Die Grundrechte in der Strafprozeßordnung 1873 und heute. Hundert Jahre, 1973, S. 1 ff.

1575 Freudenthaler, Bruno; Datenverarbeitung beim Exekutionsgericht? öRiZ 1978, S. 145 ff.

1576 Moos, Reinhard; Hundertjahre österreichische Strafprozeßordnung. öRiZ 1975, S. 77 ff.

1577 Nowakowski; Zum Verständnis des Anklageprozes-

- 1594 Cichocki; Das politische Delikt als Kompetenztatbestand des Geschworenengerichtes. oJZ 1970, S. 255 ff.
- 1595 Graßberger; Zur Reform des Schwurgerichtes. Festschr. f. Rittler, 1946, S. 49 ff.
- 1596 Liebscher; Rechtsvergleichende Analyse der Geschworenengerichtsbarkheit. oJZ 1970, S. 253 ff.
- 1597 Melnizky, Walter; Fragestellung und Rechtsbelehrung im geschworenengerichtlichen Verfahren. JBl. 1973, S. 348 ff.
- 1598 Melnizky, W.; Fragestellung und Rechtsbelehrung im geschworenengerichtlichen Verfahren. StProbl. I, 1973, S. 133 ff.
- 1599 Gossweiner; Probleme der Laiengerichtsbarkheit in Strafsachen im Lichte der Praxis und der Zeitforderungen. Versuch eines bereinigten Diskussionsbeitrages. oJZ 1970, S. 235 ff.
- 1600 Schuster, Johann; Personalsenat und Personalvertretung. oRiZ 1962, S. 95 ff.
- 1601 Bukovics, Wilhelm; Probleme der Wiedereinsetzung in den vorigen Stand. oRiZ 1955, S. 38 ff., 50 ff.
- 1602 Roeder; Der Einfluß des Todes der Prozeßsubjekte auf das Strafverfahren. oJZ 1970, S. 497 ff.
- 1603 Scheibenhof, Emil; Warum Heraushebung der Richter? oRiZ 1955, S. 33 ff.
- 1604 Schuppich; (公訴・検察 起訴 起訴 起訴) Anklage und Verteidigung) → 1667.
- 1605 Fleisch, Hermann; Staatsanwaltschaft und Sicherheitsbehörde. oRiZ 1976, S. 105 ff.
- 1606 Koll, R.; Überprüfung des Strafantrages des staatsanwaltschaftlichen Funktionärs durch den Richter. oJZ 1972, S. 205 f.
- 1607 Lambauer, Heimo; Reformbedürftige Staatsanwaltschaft? oRiZ 1977, S. 137 ff.
- 1608 Müller, Otto F.; Die Standesorganisation der Staatsanwälte. Hundert Jahre, 1973, S. 133 ff.
- 1609 Pallin, Franz; Die Grenzen des Weisungsrechtes gegenüber den Staatsanwälten und die Kontrolle der Ausübung dieses Rechtes. oRiZ 1966, S. 187 ff.
- 1610 Schonhenn, Fritz; Die Volksanwaltschaft - realistisch betrachtet. oJZ 1976, S. 561 ff., 597 ff.
- 1611 Jahoda; Die Stellung des Verteidigers. oJZ 1969, S. 569 ff.
- 1612 Jabloner, Clemens; Die Verwaltungsbehörde im Dienst der Strafjustiz. oJZ 1978, S. 533 ff.

編者 〱 Sachverständige

[Nr. 359—362]

- 1613 Fleisch, Hermann; Das Strafgesetzbuch und der psychiatrische Sachverständige. Zugleich ein Beitrag zur Anwendung des Maßnahmengerichts. oJZ 1977, S. 541 ff.
- 1614 Holzabek, Wilhelm; Der gerichtsmedizinische Sachverständige und seine Bedeutung im Strafprozeß. Hundert Jahre, 1973, S. 29 ff.
- 1615 Kollmann, Karl; Die gutachtliche Tätigkeit des Kraftfahrzeug-Sachverständigen unter Berücksichtigung technischer und physikalischer Grenzen. ZVR 1965, S. 303 ff.
- 1616 Laubichler, W. u. Sörgo, G.; Zur Problematik einer gerichtsärztlichen Einstufung von Gehirnschütterungen für das Strafverfahren. oRiZ 1973, S. 5 ff.
- 1617 Roeder, H.; Zum Sachverständigenbeweis im Lebensmittelstrafprozess. JBl. 1972, S. 76 ff.
- 1618 Stadler, Gerhard; Die Rechtsstellung der Psychologen. oJZ 1977, S. 623 ff.
- 1619 Wolfram, Hans; Der technische Sachverständige und der Verkehrsunfall. ZVR 1956, S. 19 ff.
- 被疑者** Beschuldigte
- 1620 Broda, Christian; Der Grundsatz der gerechten Behandlung des Beschuldigten im österreichischen Strafprozeß. oRiZ 1961, S. 169 ff.
- 證據** Beweis
- [Nr. 373-388]
- 1621 Asperger; Das Problem der Glaubwürdigkeit kindlicher Aussagen im Sexualprozess. oJZ 1970, S. 481 ff.
- 1622 Bader, H.; Der Schutz der privaten Sphäre gegen elektronischen Abhörgeräte nach der gegenwärtigen Rechtslage in den USA. JBl. 1972, S. 188 ff.
- 1623 Dolinar; Bemerkungen zum Prima-Facie-Beweis. oJZ 1968, S. 431 ff.
- 1624 Estl, Otto; Die zwangsweise Blutabnahme im Dienste der Strafrechtspflege als strafprozessuales Problem. ZVR 1958, S. 201 ff.
- 1625 Glöning, K. u. Quatember, R.; Sprachstörungen und Aussagefähigkeit bei Gericht. oRiZ 1974, S. 201 ff.
- 1626 Handel, Konrad; Die zwangsweise Blutabnahme im Recht der Bundesrepublik Deutschland. ZVR 1959, S. 181 ff.
- 1627 Herndlhofer, Hans; Aussagewert der klinischen Untersuchung als Beweismittel im Alkoholdelikte. ZVR 1968, S. 225 f.
- 1628 Herz, Wilhelm; Der Mensch als Beweismittel. oRiZ

1956, S. 65 f.

1629 Holczabek, W.; Zur Frage des Beweiswertes der klinischen Alkoholuntersuchung; der Zeugenaussagen und der sogenannten Umstände gegenüber der Blutalkoholbestimmung. ZVR 1968, S. 227 f.

1630 Jarosch, Klaus; Die zwangsweise Blutabnahme als medizinisches Problem. ZVR 1960, S. 49 ff.

1631 Komar, Stephan; Das Verbot der reformatio in peius in Lehre und Rechtsprechung. Hundert Jahre, 1973, S. 59 ff.

1632 Kunst, Günther; Das Abhören von Telefongesprächen zu Beweis- und Fahndungszwecken. ZVR 1963, S. 85 ff.

1633 Roeder, H.; (ユベントホーネントの采捕押禁及びその感傷的基礎の論議) Wahrheitsbeweis und Indikrationsdelikte) → 1471.

1634 Seiler, Robert; Die Beweisverbote im Strafprozeß. JBl. 1974, S. 57 ff., 123 ff.

1635 Seiler; Beweismethodenverbote im osterreichischen Strafprozeß. Festschr. f. Peters, 1974, S. 447 ff.

1636 Weier, Hans; Die zwangsweise Blutabnahme in der Strafrechtspflege als verfassungsrechtliches Problem. ZVR 1958, S. 181 ff.

中 絶 Verlaufe des Verfahrens

資料・中絶 Untersuchung und Vorverfahren
[Nr. 363—372]

1637 Ermacora; Untersuchungshaft nach der Menschenrechtskonvention. JBl. 1970, S. 393 ff.

1638 Gleissner, Alfred; Voruntersuchung bei Verkehrsunfällen mit Fahrerflucht. ZVR 1957, S. 123 f.

1639 Groschup, Oskar; Neue technische Wege der gerichtlichen Voruntersuchung. oRiZ 1958, S. 51 f.

1640 Haslmayr, Alfred; Gedanken zur Abkürzung der Untersuchungshaft. oRiZ 1972, S. 157 ff.

1641 Hengstschlager, Johannes; Grundrechte und Untersuchungshaft. Eine Studie zum aktiven Wahrrecht des Untersuchungsgefangenen. JBl. 1973, S. 19 ff.

1642 Karger; (米救済院の令申し控の社会復帰療法) Sozialtherapie an Jugendlichen in der UHat) →1428.

1643 Kodek, Gerhard; Die Untersuchungshaft unter besonderer Berücksichtigung der Reformen 1971 und 1972. oRiZ 1974, S. 69 ff.

1644 Proskel; Ist die Verhängung der Untersuchungshaft im Zuge von Vorehebungen wirklich unzulässig? oJZ 1968, S. 380 ff.

1645 Roeder, Hermann; Befreiung von der Untersuchungs-

- haft bei Kapitalverbrechen? (Zur Auslegung des § 194 StPO).
oRiZ 1957, S. 77 f.
- 1646 Bertel, Christian; Zur Reform des Vorverfahrens.
oRiZ 1975, S. 97 ff.
- 1647 Bertel, Ch.; Zur Reform des Vorverfahrens. StProbl.
III, 1975, S. 129 ff.
- 1648 Lotheissen, Wolfgang; Reform des Vorverfahrens im
österreichischen Strafprozeß. oRiZ 1962, S. 2 ff.
- 1649 Reindinger, Karl; Die Stellung der Sicherheitsbehörden
im gerichtlichen Vorverfahren. Hundert Jahre, 1973, S. 185 ff.
- 1650 Mayerhofer; Vorverfahren und Untersuchungshaft.
oJZ 1968, S. 383 f.
- 1651 Wegscheider, Herbert; Gerichtliche Vorerhebungen.
(§ 88 Abs 1 StPO). oRiZ 1977, S. 206 ff.
- 1652 Faseth, Erwin; Eine versäumte Gelegenheit. oRiZ
1969, S. 162 f.
- ⇨ 邦 Hauptverhandlung
- 1653 Heidrich, Karl; Das Hauptverhandlungsprotokoll und
seine Probleme. oRiZ 1967, S. 191 ff.
- 1654 Santner, Armin; Das Hauptverhandlungsprotokoll.
Diskussionsbeitrag zur geplanten Novellierung der StPO.
oJZ 1977, S. 351 f.
- 1655 Machacek, Rudolf; Die Wiederaufnahme des Straf-
verfahrens de lege ferenda. JBl. 1976, S. 19 ff.
- 1656 Tuppy, Karl; Auch im Wiederaufnahmeverfahren
soll dem anthropologisch-erbbiologischen Gutachten die Blut-
gruppenuntersuchung vorangehen. oRiZ 1967, S. 23 f.
- 解説・上掲 Rechtsmittel und Revision
[Nr. 399 ff.]
- 1657 Heidrich, Karl; Gedanken zu einer Reform des Re-
chtsmittelverfahrens in Strafsachen. oRiZ 1958, S. 29 ff.
- 1658 Hellwagner, Gerhard; Die Revisionsbeschränkung.
oRiZ 1967, S. 142 ff.
- 1659 Mikinovic, Stephan-Stangl, Wolfgang; Rechtsmittel-
entscheidungen im Strafverfahren. oRiZ 1978, S. 74 ff.
- 1660 Piegler, Josef; Revision und Revisionsgericht. oRiZ
1968, S. 97 f.
- 1661 Tlappek; Rechtsmittelreform im Strafverfahren.
oJZ 1968, S. 565 ff.
- 中絶罪 Verfolgung und Verfahren
- 1662 Harbich, Herbert; Über die Waffengleichheit im
Strafprozeß. oRiZ 1970, S. 1 ff., 26 ff., 47 ff.
- 1663 Hartl, Friedrich; Humanität und Strafrecht. Zum

- 200 jährigen Jubiläum der Aufhebung der Folter in Österreich. oJZ 1976, S. 147 ff.
- 1664 Schöber, Franz; Hat sich das Haftprüfungsverfahren bewahrt? oRiZ 1972, S. 191 f.
- 1665 Sobalk, Franz; Die Ansprüche nach § 193 Abs. 3 StPO. auf die für verfallen erklärte Haftkaution. oRiZ 1971, S. 1 ff.
- 1666 Schaffer, Otto; Anklageerhebung und Verfahrenseinstellung in Verkehrsstrafsachen. oRiZ 1964, S. 147 f.
- 1667 Schuppich, Walter; Anklage und Verteidigung. Hundert Jahre, 1973, S. 197 ff.
- 1669 Schwarz, Harald; Nochmals: „Anklageerhebung und Verfahrenseinstellung in Verkehrsstrafsachen“. oRiZ 1965, S. 17 f.
- 1670 Bertel; Die Urteilsberichtigung im Strafverfahren. JBl. 1968, S. 541 ff.
- 1671 Faseth; Zur Auslegung des § 265 StPO. oJZ 1968, S. 454 ff.
- 1672 Harbich, Heribert; Der Beschluß im Strafprozeß und seine Begründung. oRiZ 1977, S. 142 ff.
- 1673 Hartl, Friedrich; Die Entwicklung des Strafurteils in Österreich. oRiZ 1970, S. 136 ff.
- 1674 Mayerhofer, Christoph; Die Beurteilung der Persönlichkeit des Rechtsbrechers durch den Strafrursten. oRiZ 1969, S. 196 ff., 1970, S. 6 ff.
- 1675 Roeder; Gibt es „absolut nichtige“ Strafurteile? oJZ 1968, S. 141 ff.
- 1676 Roeder; Ist eine mehrmalige Aussetzung der Entscheidung im geschworenengerichtlichen Verfahren zulässig? JBl. 1969, S. 586 ff.
- 1677 Schuster, Johann; Probleme und Lösungen um § 398 StPO. oRiZ 1967, S. 19 ff., 41 ff.
- 1678 Steinert, Heinz; Richterliche Urteilsfindung und Strafvollzug. StProbl. II, 1974, S. 147 ff.
- 1679 Lanner, Erhard; Zur Frage der Bindung des Zivilrichters an strafrechtliche Erkenntnisse. ZVR 1958, S. 204 f.
- 1680 Pichler; Die Grenzen des aufgenommenen Verfahrens. JBl. 1970, S. 462 ff.
- 1681 Liebscher; Strafverfolgung und Menschenrechte. JBl. 1969, S. 465 ff.
- 1682 Herz, Wilhelm; Verschwiegenheitspflicht und Hausdurchsuchungen. oRiZ 1960, S. 186 ff.
- 1683 Mayerhofer, Christoph; Beschlagnahme von Postsendungen. oJZ 1968, S. 235 f.
- 1684 Mayerhofer; Die Grenzen der straflosen Verteidigung des Rechtsbrechers durch den Strafrursten. oRiZ 1969, S. 196 ff., 1970, S. 6 ff.

- gung gegen die staatliche Strafverfolgung. oJZ 1973, S. 375 ff.
- 1685 Salomon; Die Postbeschlagnahme. oJZ 1968, S. 237 f.
- 1686 Mayerhofer; Der Gebrauch der Schußwaffe durch Sicherheitsorgane. oJZ 1977, S. 449 ff.
- 1687 Sinzinger, Felix; Der religiöse Eid im gerichtlichen Verfahren. oJZ 1973, S. 121 ff.
- 1688 Pallin, Franz; Die Nichtigkeitsbeschwerde zur Wahrung des Gesetzes. Hundert Jahre, 1973, S. 167 ff.
- 1689 Pichler-Drexler, Erwin; Der Mangel einer Wideranklage im osterreichischen Strafprozeß. oRiZ 1959, S. 37 ff.
- 1690 Hagen, Johann J.; Das Problem der Verfahrensdauer als Gegenstand der Rechtsstatensforschung. JBl. 1973, S. 75 ff.
- 1691 Schögl, Berta; Die Dauer des Mordprozesses in Zwischenkriegszeit und Gegenwart. oJZ 1973, S. 385 ff.
- 1692 Sandri, Adolf; Der Strafantrag im bezirksgerichtlichen Verfahren. oRiZ 1956, S. 4 f.
- 1693 Sandri; Anregung einer Änderung der §§ 454 und 459 StPO. oRiZ 1957, S. 109 ff.
- 1694 Bukovics, Wilhelm; Die Neugestaltung des Verfahrens in Bagatelsachen. oRiZ 1956, S. 66 ff., 81 ff., 101 ff.
- 今中興 Jugendrecht und Jugendstrafrecht
[Nr. 416—453]
I 卷 Im allgemeinen
1695 Kadečka; Festrede zum osterreichischen Jugendrichtertag im Oktober 1956. Festschr. f. Rittler, 1957, S. 21 ff.
- 1696 Bamberger, Hermann; Nochmals: Jugendschutzsachen. oRiZ 1955, S. 49 f.
- 1697 Hofner, K. J.; Die Problematik des jugendlichen Kraftfahrers. ZVfR 1974, S. 52 ff.
- 1698 Hackauf, Friedrich; Gedanken zur Jugendrichtertagung. oRiZ 1956, S. 113 f.
- 1699 Hackauf; Schlüsselworte zur Jugendrichtertagung. oRiZ 1957, S. 1 f.
- 1700 Hackauf; Zweite Jugendrichtertagung. oRiZ 1958, S. 61 f.
- 1701 Hackauf; Erfüllte Resolutionen. oRiZ 1962, S. 1 f.
- 1702 Honigschmid, Franz; Der V. Kongreß der Internationalen Vereinigung der Jugendrichter (A. I. J. E.) in Brüssel vom 14. bis 18. Juli 1958. oRiZ 1958, S. 125 ff.
- 1703 Kodak, Gerhart; Deutscher Jugendgerichtstag. oRiZ 1966, S. 7 f.

- 1704 Kodex: 8. Tagung der österreichischen Jugendrichter. oRiZ 1971, S. 42 ff.
- 1705 Korner, Alfred; Der Erziehungsnotstand nach dem Jugendgerichtsgesetz 1961. oRiZ 1962, S. 241 ff.
- 1706 Lustig; (櫻木保の著) Kritische Betrachtungen über Fahrlässigkeitsdelikte usw.) → 1367.
- 1707 Obendorf, Richard; Tagung der Tiroler Jugendrichter. oRiZ 1966, S. 19 ff.
- 1708 Piska jun., Karl; Der 11. Deutsche Jugendgerichtstag vom 22. bis 24. Oktober 1959 in Berlin. oRiZ 1959, S. 181 ff.
- 1709 Piska; Welche Neuerungen brachte die Zuständigkeitsvorschrift des § 33 Jugendgerichtsgesetz 1961 für das Verfahren in Jugendstrafsachen? oRiZ 1962, S. 69 ff.
- 1710 Piska; Die vierte Tagung der österreichischen Jugendrichter in Linz. oRiZ 1963, S. 66 ff.
- 1711 Piska; Die fünfte Tagung der österreichischen Jugendrichter vom 6. bis 9. Oktober 1964 in Eisenstadt. oRiZ 1966, S. 1 f.
- 1712 Reissig; Neuerungen im Jugendgerichtsgesetz 1961. oJZ 1969, S. 657 ff.
- 1713 Schindler, Sepp; Psychologische Anmerkungen zu einigen Grundzügen des österreichischen Jugendgerichtsgesetzes. oRiZ 1956, S. 163 ff.
- 1714 Schuster, Johann; Ein Jahr Jugendgerichtsgesetz 1961. oRiZ 1963, S. 57 ff.
- ☆ 田 Auslandschau
- 1715 Nargang, Ingrid; Jugendrichter in Paris. oRiZ 1971, S. 91 ff.
- 1716 Singer, Maden; Jugendliche im jugoslavischen Strafrecht. JbI. 1969, 594 ff.
- 1717 Somló, Klára; Das ungarische Jugendgesetz. oRiZ 1972, S. 141.
- ★ 田 Reform des Jugend-(straf-)rechts
- 1718 Bamberger, Hermann; Gedanken zu einer Weiterentwicklung des Jugend-Straf- und Vormundschaftsrechtes. oRiZ 1960, S. 145 ff.
- 1719 Broda, Christian; Die Jugendgerichtsbarkeit nach der Strafrechtsreform. oJZ 1975, S. 197 ff.
- 1720 Kießwetter, R.; Würde bei der „Kleinen Strafrechtsreform“ auf die Jugendgerichtsbarkeit vergessen? oJZ 1972, S. 64 ff.
- 1721 Kodex, Gerhard; Zur Praxis des Jugendstrafrechts. Gedanken zur Reform des JGG 1961. oJZ 1973, S. 449 ff.
- 1722 Korner; Einige Vorschläge zur Ergänzung oder

Abänderung jugendrechtlicher Bestimmungen. oJZ 1968, S. 202 ff.

1723 Reissig, Gottfried: Die Weiterentwicklung des Jugendstrafrechts im Rahmen der Strafrechtsreform. oJZ 1974, S. 85 ff.

年齢区分 Altersabgrenzung

1724 Bamberger, Hermann: Ist eine Teilung der heranwachsenden Rechtsprecher nach dem Reifegrad richtig und zweckmäßig? oRiZ 1961, S. 111 ff.

1725 Faseth, Erwin: Sind die derzeitigen Altersgrenzen noch zeitgemäß? oRiZ 1972, S. 1 ff.

処分 Jugendrechtliche Maßnahmen

1726 Bamberger, Hermann: Bedeutung der Weisungen im Jugendstrafrecht. oRiZ 1962, S. 179 f.

1727 Burgstaller, Manfred: Ist der Einsatz des Strafrechts eine sinnvolle Reaktion auf delinquentes Verhalten Jugendlicher? oJZ 1977, S. 113 ff.

1728 Krenstetter: Zur Auslegung des Begriffes „Besserung“ in § 14 Abs. 2 JGG 1961. oJZ 1970, S. 344 ff.

1729 Pichler-Drexler: (ホーネマンの児童精神の1編の参考)

※ Die echte bedingte Verurteilung nach § 13 oJZ) → 1418.

1730 Piska jun, Karl: Zu den Bestimmungen des Jugendgerichtsgesetzes 1961 über den bedingten Strafnachlaß wegen einer freiheitsentziehenden Erziehungsmaßnahme. oRiZ 1961, S. 185 ff.

感 觸 Behandlung

1731 Karger: (ホーネマンの児童精神の1編の参考) Sozialtherapie an Jugendlichen in der UHaft) → 1428.

1732 Korner, Alfred: Nochmals die „bedingte“ Verweisung in eine Bundesanstalt für Erziehungsbedürftige. oRiZ 1961, S. 150 ff.

手 続 Jugendverfahren

1733 Katholnig, Bruno: Zur gerichtlichen Vertretung von Gemeinden und Jugendämtern. oRiZ 1969, S. 38 ff.

1734 Markel, Ernst: Durchbruch § 35 JGG 1961 die perpetuatio fori? oRiZ 1976, S. 43 ff.

1735 Piska jun, Karl: Zur Frage des Kostenersatzes im Strafverfahren in Jugendsachen. oRiZ 1960, S. 131 f.

1736 Piska: Zur Auslegung der §§ 36 Abs. 1 JGG. 1949 und 37 Abs. 1 JGG. 1961 über die Präventivhaft in Jugendsachen. oRiZ 1962, S. 120 ff.

1737 Piska: Über einige auch für den allgemeinen

Strafrichter bedeutsame Verfahrensvorschriften des Jugendgerichtsgesetzes 1961. öRiZ 1964, S. 83 ff.

泉臨著・整律法著 Kriminologie und ihre Nachbarwissenschaften

[Nr. 454—470]

I 卷 Im allgemeinen

1738 Stumpff, Friedrich J.; Zur Psychopathologie und Dynamik destruktiver Tropismen. Festschr. f. R. Lange, 1976, S. 737 ff.

1739 Adam, Robert; Ein Polizeibeamter zur Kriminalität in den USA. öRiZ 1970, S. 191 ff.

1740 Arzt, Gunther; Ursachen und Folgen der Kriminalitätsfurcht. JBl. 1978, S. 173 ff.

1741 Doletsch, Wolfgang; Gedanken zur Kriminalprognostik. öRiZ 1968, S. 181 ff.

1742 Fehérváry, János; Die gegenwärtige Lage der österreichischen Kriminologie. öRiZ 1976, S. 125 ff.

1743 Graßberger; Hundertjahre reformierter Strafprozeß und die Entwicklung der Kriminologie in Österreich. Hundert Jahre, 1973, S. 17 ff.

1744 Hagen; (英) 刑事法論の発展と日本の刑事法の問題の認識 Das Problem der Verfahrensdauer als Gegenstand der Rechts-

tatsachenforschung) → 1690.

1745 Hartl, Friedrich; Historische Kriminologie in Österreich. Realität und Möglichkeit. öJZ 1978, S. 285 ff.

1746 Hartmann, Rudolf; Die Rolle der Massenmedien in spektakulären Kriminalfällen. öRiZ 1978, S. 69 ff.

1747 Herold, Horst; Ist die Kriminalitätsentwicklung und damit die Sicherheitslage-verlässlich zu beurteilen? öJZ 1977, S. 292 ff.

1748 Probst, Karlheinz; Der Labeling-approach, eine österreichische kriminologische Theorie. öRiZ 1977, S. 45 ff.

1749 Schima, Konrad; Die österreichische Kriminologie — etwas anders gesehen. öRiZ 1976, S. 130 f.

1750 Schima, K.; Frauenkriminalität in Österreich. öJZ 1978, S. 561 ff.

1751 Sesser, Klaus; Moderne Tendenzen in der deutschen Kriminologie. öJZ 1975, S. 59 ff.

1752 Stangl, Wolfgang; Instanzen sozialer Kontrolle als Forschungsgegenstand der Kriminalsoziologie. öRiZ 1977, S. 92 ff.

泉臨の選載 Deliktarten

1753 Breitmeyer, L.; Medizinische Probleme zur Verkehrssicherheit. ZVR 1968, S. 146 ff.

- 1754 Fleisch, Hermann; Schwere Verkehrskriminalität und Strafgerichtsbarkeit. ZVR 1959, S. 81 ff.
- 1755 Fleisch, H.; Schwere Verkehrskriminalität und Strafgerichtsbarkeit. ZVR 1961, S. 265 ff.
- 1756 Hoff-Sluga; (標準薬品と発心の薬理精神医学精神 Geistesranke Rechtsbrecher in psychiatrischen Krankenanstalten) → 1427.
- 1757 Császár, Franz; Kinder- und Jugendkriminalität in Wien. oJZ 1978, S. 63 ff.
- 1758 Grabberger; Die Jugendkriminalität der Gegenwart. oJZ 1972, S. 229 ff.
- 1759 Hartmann, Rudolf—Martinshausen, Hugo; Ursachen, Prognose und Bekämpfung der Jugendkriminalität im Lichte der Statistik. oRiZ 1964, S. 167 ff.
- 1761 Epp, Helmut; Das Problem der grenzüberschreitenden Suchtgiftkriminalität mit Ausblicken. oJZ 1977, S. 452 ff.
- 1762 Kissler, W.; Suchtgifte - Probleme und Methoden des chemischen Nachweises. oRiZ 1973, S. 149 ff.
- 1763 Pehervary; Wirtschaftskriminalität - Stiefkind der Kriminologie. oRiZ 1978, S. 95 ff.
- 1764 Graf, Rudolf; Alkoholisimus und Kriminalität. oRiZ 1968, S. 100 f.
- 1765 Mayerhofer, Christof; Die Raubkriminalität in Österreich. oRiZ 1968, S. 81 ff.
- 1766 Hoff - Sluga (標準薬品と発心の薬理精神医学精神 Geistesranke Rechtsbrecher in psychiatrischen Krankenanstalten) → 1427.
- 泉臨製煉所・邦国部 犯罪学統計学 u. Gerichtsmedizin
- 1767 Foregger, Egmont; Blutalkoholgehalt, Berauschnungsgrad und Ausmaß der Fahrnsicherheit. Zugleich eine Besprechung des Werkes „Die alkoholbedingte Fahrnsicherheit“ von Dr. Günther Hesse. ZVR 1960, S. 7 f.
- 1768 Maresch, Wolfgang; Der Verkehrsunfall in Gerichtsmedizinischer Sicht. ZVR 1965, S. 254 ff.
- 1769 Maurer, Heinz; Blutalkoholforschung und Rechtspflege. ZVR 1970, S. 57 ff., 85 ff.
- 1770 Sacher, Fritz; Umfang und Reihenfolge der Fahrzeuguntersuchung auf ein technisches Gebrechen. oRiZ 1974, S. 203 f.
- 1771 Wolkart, Norbert; Wie kann der Gerichtsdemizin zur Wahrheitsfindung beim Verkehrsunfall beitragen? ZVR 1956, S. 5 ff.
- 泉臨 犯罪学統計学
I 巻 Im allgemeinen

- 1772 Doleisch, W.; (原案罪を減輕するに由る罪の減輕 Alternativen zur Freiheitsstrafe unter besonderer Berücksichtigung der Geldstrafe) →1798.
- 1773 Hauptmann, Walter; Möglichkeiten und Grenzen einer modernen Kriminalpolitik. StProbl. III, 1975, S. 91 ff.
- 1774 Nowakowski; Die Zurückdrängung der kurzen Freiheitsstrafe in der RV 1971. oJZ 1973, S. 1 ff., 34 ff.
- 1775 NN.; Verbrechen und Sanktion—Kriminalpolitik am Scheideweg? Entwicklungstendenzen im europäischen Strafrecht (Internat. Symposion der Europ. Akademie Berlin vom 26. Februar bis 2. März 1978. Tagungsbericht). öRiZ 1978, S. 52 ff.
- 刑法 Strafvollzug
- [Nr. 215—225]
- 1776 Bertel; Der Strafvollzug in Stufen und in gelockerteter Form im Strafvollzugsgesetz. JBl. 1971, S. 493 ff.
- 1777 Doleisch, Wolfgang; Zum neuen Strafvollzugsgesetz. öRiZ 1969, S. 193 ff.
- 1778 Doleisch, W.; Erfahrungen mit der Klassifizierung. öRiZ 1970, S. 209 ff.
- 1779 Doleisch, W.; Die Möglichkeiten der Resozialisierung von Strafgefangenen in der Praxis des Strafvollzuges. JBl. 1971, S. 502 ff.
- 1780 Doleisch, W.; Die Sondervollzüge nach dem Strafvollzugsgesetz in kriminalpolitischer Sicht. öRiZ 1976, S. 65 ff.
- 1781 Ermacora; Strafvollzug und Menschenrechte. oJZ 1969, S. 654 ff.
- 1782 Fischer, Friedrich; Strafvollzug in Schweden. öRiZ 1978, S. 158 f.
- 1783 Fries, Karl; Ein Besuch in der Männerstrafanstalt Stein. öRiZ 1964, S. 7 f.
- 1784 Glassl, Karl; Der Strafvollzug in Österreich. öRiZ 1960, S. 33 ff., 52 ff.
- 1785 Glassl; Die Gefangenearbeit unter besonderer Berücksichtigung der Entlohnung. oJZ 1968, S. 365 ff.
- 1786 Huber, Edgar; Strafzwecke - Vollzugszwecke - Vollzugsziel. öRiZ 1976, S. 234 ff.
- 1787 Kodex, Gerhard; Jugendstrafvollzug und Bewährungshilfe in den USA. öRiZ 1964, S. 45 ff.
- 1788 Kodex; Zur Reform des Strafvollzuges. oJZ 1970, S. 505 ff.
- 1789 Piska, Karl; Fortdauernde Haft wegen Wiederholungsgefahr? öRiZ 1965, S. 75 f.
- 1790 Rieder, Maria A.; Die Unterbringung in einer An-

- stalt für gefährliche Rückfallsträter. oJZ 1976, S. 390 ff.
- 1791 Segl, Theodor; Der zeitgemäße Jugendstrafvollzug. Der Jugendstrafvollzug als soziale Drehscheibe. oJZ 1977, S. 511 ff.
- 1791a Sluga, Williband; Psychiatrie und Freiheitsentzug. Festschr. f. Broda, 1976, S. 315 ff.
- 1792 Steinert, H.; (線形化の方向から見る) Richtliche Urteilsfindung u. Strafvollzug) →1678.
- 1793 Weinmann, Hermann; Probleme des Führerscheinentzuges. ZVR 1960, S. 1 ff.
- 1794 Wilfert, Otto; Group-Counselling im österreichischen Strafvollzug. oJZ 1974, S. 509 ff.
- 1795 de With, Hans; Das Strafvollzugsrecht in der Bundesrepublik Deutschland. oRiZ 1976, S. 209 ff.
- 1796 NN; Aktivitäten im Dienste der Resozialisierung. oRiZ 1978, S. 28.
- 學說問題** Einzelprobleme der Kriminalpolitik
- 1797 Leitberger, Kari; Ausländerpolizeiliche Probleme in der Bundesrepublik Deutschland. oRiZ 1965, S. 106 ff.
- 1798 Doleisch, Alternativen zur Freiheitsstrafe unter besonderer Berücksichtigung der Geldstrafe. oRiZ 1974, S. 148 ff.
- 1799 Doleisch; Alternativen zur Freiheitsstrafe unter besonderer Berücksichtigung der Geldstrafe. StProbl. II, 1974, S. 59 ff.
- 1800 Nowakowski; Das Tagesußensystem nach § 19 der Regierungsvorlage (1971) eines Strafgesetzbuches. oJZ 1972, S. 197 ff.
- 1801 Probst, Karlheinz; Die Vererblichkeit der Geldstrafe. oJZ 1977, S. 598 ff.
- 1802 Schulz, Edwin; Zur Problematik des § 19 Absatz 4 StGB. oRiZ 1977, S. 22 ff.
- 1803 Schulz, E.; Zur Frage der Überlassung der Geldstrafe an den Geschädigten. oRiZ 1977, S. 254 ff.
- 1804 Schulz, E.; Der Strafaufschub im Tagessatzsystem. oRiZ 1978, S. 230 ff.
- 1805 Trondle, Herbert; Geldstrafe und Tagessatzsystem. oJZ 1975, S. 589 ff.
- 1806 Zipf, Heinz; Die Bemessung des Tagessatzes im neuen Geldstrafensystem. JBl. 1977, S. 304 ff.
- 1807 Egermann, Josef; Das „Fahrverbot“ in der Bundesrepublik Deutschland und in Österreich. ZVR 1966, S. 115 f.
- 1808 Horrow, Max; Entzug des Führerscheines durch richterliches Urteil. ZVR 1956, S. 33 ff.
- 1809 Hartmann, Rudolf; Der bedingte Strafnachlaß in

- kriminologischer Sicht. öRiZ 1960, S. 105 ff.
 1810 Schutlz; (田線編卷への罪の観) Der Strafaufschub im Tagessatzsystem) →1804.
 1811 Boess, Walter; Entlassenehilfe—Voraussetzung der Resozialisierung. öRiZ 1972, S. 155 ff.
 1812 Hartmann, Rudolf; Die bedingte Entlassung in kriminologischer Sicht. öRiZ 1962, S. 233 ff.
 1813 Pilgram, Arno; Einige Aspekte der Entscheidungsproblematik bei der bedingten Entlassung Strafgefangener. öJZ 1975, S. 387 ff.
 1814 Pilgram, A.; Materialien zur Praxis der bedingten Entlassung seit der Strafrechtsreform—Unpolenisches zu einem angefeindeten Rechtsinstitut. öRiZ 1978, S. 182 ff.
 1815 Schober, Franz; 90 Jahre Strafallgenhilfe in Graz. öRiZ 1975, S. 65.
 1816 Waach, Gregor; 1961 bis 1966 zur Probe entlassenen Strafgefangenen. öRiZ 1972, S. 198 ff.
 柴田和・柴田肇 Rechtsphilosophie und Rechtstheorie
 1817 Adamovich, Ludwig; Verfassungsgewissenshaftigkeit und Reine Rechtslehre (Zugleich eine Besprechung des unter diesem Titel erschienenen Buches von René Marcic.) öJZ 1968, S. 617 ff.
 1818 Adamovich; Allgemeine Staats- und Verwaltungslehre. Legalitätsprinzip und Ideologie. Dimensionen des Rechts. Gedächtnisschr. f. R. Marcic, 1974, S. 723 ff.
 1819 Bohm, Peter; Zur Interpretationstheorie der Reinen Rechtslehre im Lichte ihrer gegenwärtigen Vertreter. JBl. 1975, S. 1 ff.
 1820 Bohm, P.; Möglichkeiten und Grenzen des analytischen Strukturalismus in der Rechtswissenschaft. Zugleich eine Besprechung von Lachmayer-Reisinger: Legistische Analyse der Struktur von Gesetzen. ZVR 1977, S. 257 ff.
 1821 Eckert, Leopold; Der Computer, ein Rechtsobjekt sui generis öJZ 1977, S. 39 f.
 1822 Ermacora, Felix; Die „Rassendiskriminierungskvention“ als Bestandteil der österreichischen Rechtsordnung. JBl. 1973, S. 179 ff.
 1823 Gender, Heinrich; Normen und ihre Bedeutung im technischen Recht. öJZ 1976, S. 652 ff.
 1824 Hartmann, Rudolf; Die gegenwärtige presserechtliche Situation. öRiZ 1967, S. 59 ff.
 1825 Helfer; Rudolf von Jhering über das Rechtsgefühl. öJZ 1968, S. 589 f.
 1826 Henkel, H.; Eine Rechtsphilosophie in Vorlesungen. Besprechung des Werkes von René Marcic. JBl. 1970, S. 113 ff.

- 1827 Jann, Peter; Die Englandreise österreichischer Richter. *öRiZ* 1960, S. 165 f.
- 1828 Kadecka, Hubert; Gedanken über die Rechtsprechung und ihre staatspolitische Funktion. *oJZ* 1977, S. 57 ff.
- 1829 Kraft; Recht und Moral. *JBl.* 1970, S. 543 f.
- 1830 Kramer; Zum Problem der rechtlichen Motivation. *oJZ* 1970, S. 564 ff.
- 1831 Kubes, Vladimir; Die heutige Sendung der Rechtsphilosophie. *oJZ* 1975, S. 600 ff.
- 1832 Kuhne, Josef; Rechts- und Staatslehre als Wirklichkeitswissenschaft. Eine Würdigung des österreichischen Rechtsgelahrten Hermann Heller. *oJZ* 1977, S. 253 ff.
- 1833 Loebenstein, Edwin; Die Freiheit der Wissenschaft und ihrer Lehre. *oJZ* 1974, S. 253 ff.
- 1834 Marcic, René; Die Bedeutung der Rechtsphilosophie im Ganzen der Rechtswissenschaft. Gedanken zur Fortgestaltung des Jusstudiums in Österreich. *oJZ* 1968, S. 169 ff.
- 1835 Marcic; Gustav Radbruch und Hans Kelsen. *Gedachtnisschr. f. Radbruch*, 1968, S. 82 ff.
- 1836 Marcic; Staat—Verstandswissenschaft. *JBl.* 1969, S. 361 ff.
- 1837 Marschall, Karl; Ein halbes Jahrhundert Bundesverfassung im Lichte der Reinen Rechtslehre. (Zugleich Befassung und Würdigung der Grundzüge von Robert Walter, Österreichisches Bundesverfassungsrecht). *oJZ* 1974, S. 233 ff.
- 1838 Mayer-Maly; Auslegen und Verstehen. *JBl.* 1969, S. 413 ff.
- 1839 Michlmayr, Eduard; Justiz und Politik. (Zugleich Stellungnahme zu dem in *RZ* 1974, 17 ff und 33 ff veröffentlichten Vortrag Heinrich Kellers). *öRiZ* 1974, S. 89 ff.
- 1840 Mock, E.; Gewissensfreiheit—Recht—Kriegsdienst. *JBl* 1971, S. 12 ff.
- 1841 Mutz, Gerfried; Rechtsprobleme des sogenannten Datenschutzes. *JBl.* 1973, S. 245 ff.
- 1842 Ong, Dennis S. K.; Der Begriff der Norm bei Hans Kelsen. *oJZ* 1977, S. 169 ff.
- 1843 Pallin; Persönlichkeitsschutz und Massenmedien. *JBl.* 1972, S. 393 ff.
- 1844 Pichler, J.; Zur Rechtsnatur der Skiregeln. *öRiZ* 1972, S. 193 ff.
- 1845 Piegler, Josef; Im Flug durch Deutschland. *öRiZ* 1964, S. 21 ff.
- 1846 Piegler, J.; Juristische Dokumentation. *öRiZ* 1967, S. 1 ff.
- 1847 Piegler, J.; Die Richter und ihre Zeitung. *öRiZ* 1967, S. 77.

- 1848 Rehinder, Manfred; Über den Nutzen der Rechtssoziologie für die Rechtspraxis. oJZ 1975, S. 565 ff.
- 1849 Reichert-Facilides, Fritz; Betrachtungen über vergleichendes und geschichtliches Rechtsdenken. JBl. 1973, S. 393 ff.
- 1850 Reisinger, Leo; Methodenprobleme der Rechtsinformatik. oJZ 1974, S. 35 ff.
- 1851 Reisinger, L.; Rechtsinformatik. Ein Überblick. JBl. 1975, S. 68 ff.
- 1852 Rieder, Sepp; Stand der Medienrechtsreform. StProBl. II, 1974, S. 127 ff.
- 1853 Schuster, Johann; Elektronische Datenverarbeitung in der Justiz. oRiZ 1971, S. 73 ff.
- 1854 Schuster, J.; Elektronische Datenverarbeitung in Bundesverwaltung und Justiz. oRiZ 1972, S. 93 ff.
- 1855 Stutfler; Das Naturrecht—eine historische Frage. Kritische Anmerkungen zum Naturrechtsproblem in Geschichte und Gegenwart. oJZ 1969, S. 144 ff.
- 1856 Triebnigg; Orientierung über das Problemler Naturrechtslehre. (Zugleich eine Besprechung der 3. Aufl. des Buches „Das Problem der Naturrechtslehre. Versuch einer Orientierung“ von DDr. Erik Wolf). oJZ 1968, S. 263 ff.
- 1858 Wassermann, Rudolf; Nochmals: Justiz und Politik. oRiZ 1974, S. 184 ff.
- 1859 Wegscheider, Herbert; Rechtsinformatik in Österreich — eine Utopie? oRiZ 1973, S. 73 ff.
- 1860 Weis, G.; Savigny und die Wirklichkeit. öJZ 1972, S. 1 ff.
- 1861 Weinzierl, Emil; Wann ist der Umkehrschluß zulässig? öJZ 1973, S. 372 ff.
- 1862 Welan, Manfred; Grundzüge des neuen österreichischen Universitätsrechts. öJZ 1976, S. 85 ff.
- 1863 NN.; Justiz und Massenmedien. Kontaktgespräche im Grauen Haus. —Zweites Arbeitsgespräch. öRiZ 1968, S. 86 ff., S. 184 ff.
- 轉木澤・久野 Grundrechte, Menschenrechte
- 1864 Bydliński, Franz; Die Grundrechte in Relation zur richterlichen Gewalt. öRiZ 1965, S. 67 ff., 85 ff.
- 1865 Kneucker; Wirksame Rechtsmittel gegen Verletzung der Europäischen Menschenrechtskonvention. JBl. 1968, S. 598 ff.
- 1866 Liebscher; (刑罰制度への久野 Strafverfolgung und Menschenrechte) → 1681.
- 1867 Liebscher, Viktor; Menschenrechte in neuer Sicht! Die Resolutionen des Wiener Kolloquiums zum XII. Inter-

nationalen Strafrechtskongreß. JBl. 1978, S. 505 ff.

ㄱ의예

1868 Atzwanger, Konrad; Zum Verfahren parlamentarischer Untersuchungsausschüsse. oJZ 1977, S. 337 ff.

1869 Dittrich, Robert; Über den Schutz von Satellitensendungen. ZVR 1972, S. 34 ff.

1870 Dittrich, R.; Der neue Vorentwurf eines internatio-

nationalen Abkommens über den Schutz von Satelliten. ZVR 1973, S. 33 ff.

1871 Edlbacher, Oskar; Die Sicherstellung des Ersatzes für Atomschäden. („Deckungsvorsorge nach dem Atomgesetz.“) ZVR 1963, S. 29 ff.

1872 Gidl, Karlheinz; Strafrechtliche Aspekte von Bergunfällen. ZVR 1978, S. 289 ff.